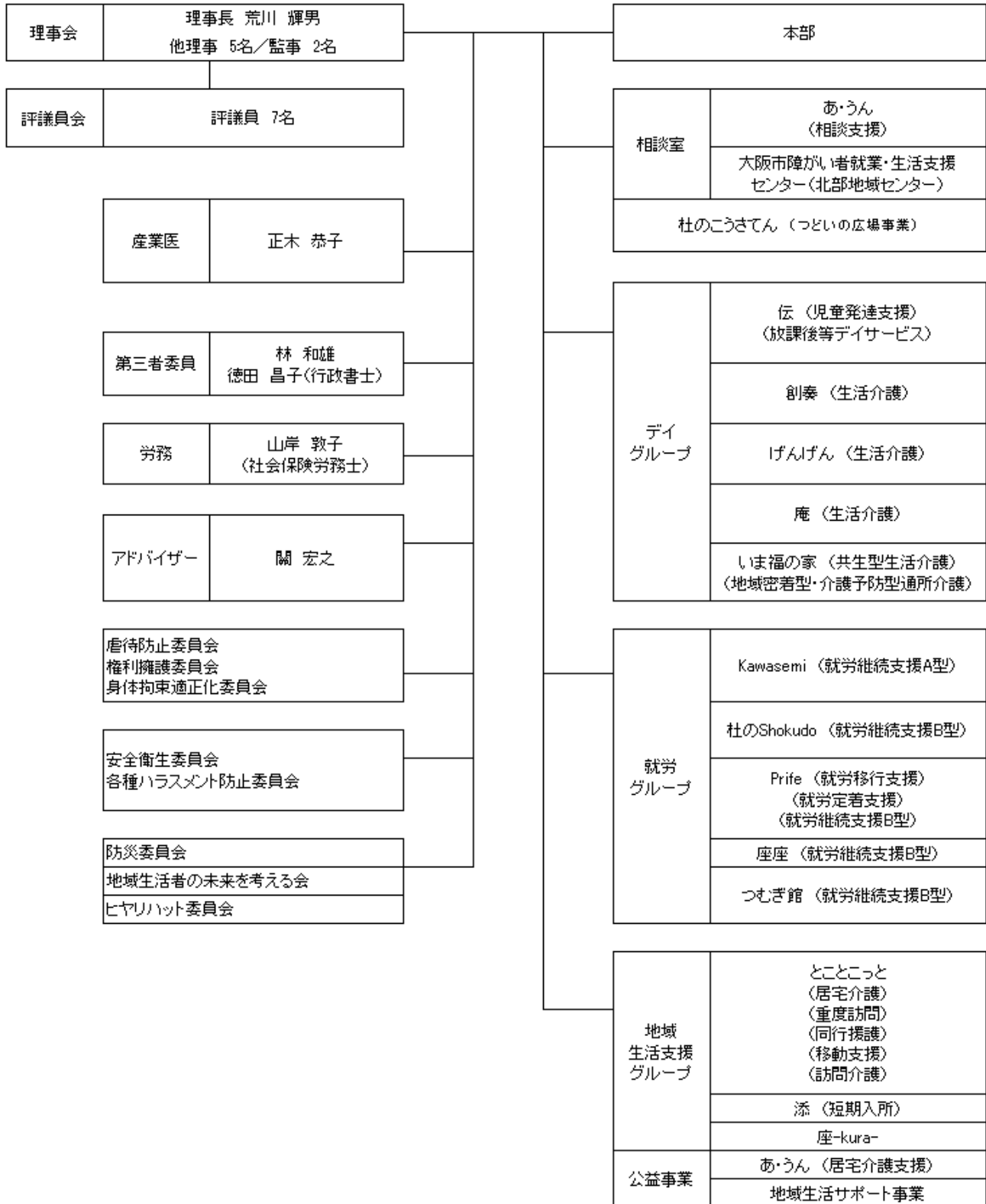


社会福祉法人 そうそうの杜

**2022年度 事業報告書**



## 2022 年度理事会・評議員会 開催結果

日付	開催	議案	その他報告
6/8	監事監査		
6/13	第 26 回 理事会	1.2021 年度事業報告（案）・決算報告（案）承認の件 2.監事監査報告（案）承認の件 3.大阪府社会福祉協議会の貸付連帯保証申請承認の件 4.びんの郷新築工事入札結果承認の件 5.福祉医療機構借入承認の件 6.2022 年度定時評議員会の日程	
6/28	2022 年度 定時評議員会	1.2021 年度事業報告・決算報告の件 2.監事監査報告の件	
2/2	第 27 回 理事会	1.「びんの郷」新築工事に伴う事業の再編承認の件 2.「いま福の家（地域密着型通所介護・予防通所介護・共生型生活介護）」の事業廃止承認の件 3.「いま福の家（生活介護・共生型通所介護・共生型予防通所介護）」の開始承認の件 4.資金運用規定承認の件 5.子育て支援策承認の件 6.2023 年度大阪府社会福祉協議会の貸付連帯保証申請承認の件 7.奨学金制度承認の件 8.給与規定の改定承認の件 9.就業規則の改正承認の件	1.2022 年度収支の中間報告 2.地域生活支援拠点の登録申請 3.特定技能（介護）の採用と継続的な受け入れ 4.理事・監事の退任について 5.大阪市社会福祉研究 45 号掲載 6.寄付・遺贈について 7.物価高騰対策手当 8.ソフトバンクグループ第 58 回無担保社債購入について
3/22	第 28 回 理事会	1.2022 年度補正予算（案）承認の件 2.2023 年度事業計画（案）・予算（案）承認の件 3.経理規定及び別表 3 の変更承認の件	1.寄付・遺贈について 2.給与規定について 3.就業規則について 4.ストレスチェックについて

# 目次

## I 法人全体

## II 第2種社会福祉事業

- 1 相談支援（特定・一般） 「地域生活支援センターあ・うん」
- 2 就労支援グループ
  - (1) 就労移行支援・就労定着支援・就労継続支援 B 型 「Prife」
  - (2) 就労継続支援 B 型 「座座」
  - (3) 就労継続支援 B 型 「つむぎ館」
  - (4) 就労継続支援 A 型 「Kawasemi」／就労継続支援 B 型 「杜の Shokudo」※多機能事業所
- 3 デイグループ
  - (1) 生活介護 「庵」
  - (2) 生活介護 「げんげん」
  - (3) 生活介護 「創奏」
  - (4) 共生型生活介護 「いま福の家」
  - (5) 児童発達支援・放課後等デイサービス 「伝」
- 4 地域生活支援グループ
  - (1) 居宅介護・重度訪問介護・同行援護／移動支援／訪問介護「ホームヘルプセンターとことこっと」
  - (2) 短期入所 「添」
- 5 大阪市地域子育て支援拠点事業「一般型（ひろば型）」 「杜のこうさてん」

## III 公益事業

- 1 居宅介護支援事業 「地域生活支援センターあ・うん」
- 2 大阪市障がい者就業・生活支援センター事業「北部地域障がい者就業・生活支援センター」
- 3 地域生活サポート事業

## IV 各種活動

- 1 権利擁護・虐待防止委員会報告
- 2 安全衛生委員会報告
- 3 ヒヤリハット委員会活動報告・事故報告
- 4 防災委員会活動報告
- 5 地域生活者の未来を考える会活動報告
- 6 クラブ活動

# I 法人全体

## 1.はじめに

2022 年度は、世界中が混乱の年として位置づけられた。その一つはプーチンの戦争によるウクライナへの侵攻であり、終わりが見えない戦争に対して欧米諸国もここぞとばかりに兵器の支援を続けていた。両国の対話や和平の仲介を名乗り出る国も今ではなくなってしまい、膠着状態のままいたずらにに時間が過ぎていた。

国際刑事裁判所（ICC）がロシアのウラジミール・プーチンらに対して、2 万人近くのにのぼる児童誘拐等戦争犯罪を理由に逮捕状を発行したが、今後、国際的な世論の盛り上がり等でその効力が発揮されるのか疑問である。

アジアに目を移すとウクライナの陰で忘れられがちだが、ミャンマーの情勢に変化はなく国際的な手立てがなされていない。ミャンマー軍事政権は、国連との対立のため世界から孤立し、国民は支援を必要としているにもかかわらずどの国もアプローチできない。国内の公共サービス機能は低下し、国内避難民は 100 万人を超えている。本法人で働いている留学生（アルバイト）の家族も、生まれ育った村を離れ山間部でくらすことを余儀なくされている。ミャンマー国内の産業は停滞し、多くの若者が生産活動に携わることができず海外へ出国することを望んでいるという。また、同じ留学生（アルバイト）として働いているスリランカ人の祖国においても、経済的な混乱が続いている。

現在、この 2 か国の留学生が、本法人でアルバイトをしながら介護福祉士の取得を目指し、勉学に励んでいる。

新型コロナウイルスについては、オミクロン株/BA.5 の流行が少しずつ治まり、多くの人達が感染拡大前の生活に戻るような動きを見せ始めた。

本法人の事業は、利用する利用者がある限り止まることはなく、これまで実施してきた感染症対策を継続しながら事業を運営した。大きく変わった生活様式にも新たに対応してきた。

昨今、多くの福祉現場では、介護事故による訴訟・利用者への虐待事案・送迎車両の交通事故が起きている。人員不足や人材不足の為に労働者不足や業務過多など原因はさまざまであると思われるが、すべてを速やかに改善していくことは難しい状況である。直接支援業務と付帯業務を整理していく必要があるかもしれないが、本法人では、外国人の人材を 3 年計画（1 年間は日本語学校、2 年間は介護福祉士専門学校）で養成し、2024 年 4 月の採用を見越し育成を進めてきた。

## 2.法人全体について

### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

法人内における新型コロナウイルス感染拡大のピークは、7 月末から 8 月末にかけての 1 か月間であり、いわゆる第 7 波の到来であった。最初の事業所内での感染確認を封じ込めることができず、9 日後には累計 10 名であった。以降は雪だるま式に増加し、最終的な感染者数累計は利用者 36 名、スタッフ 30 名の合計 66 名であった。結果として、感染者が多かった事業所は、8/4～10 の 7 日間は閉鎖せざるを得なかった。分析の結果、感染拡大の要因は 2 つである。

- ①スタッフ利用者の接点が複雑に絡み合うこと
- ②感染状態がグレーなゾーンとグレーな利用者への対応方法のミス

スタッフ利用者の接触を分析したところ傾向としては、スタッフの家族からの感染拡大が多かった。一時的ではあるが、利用者スタッフの接触範囲を限定的に制限することで、結果として感染拡大は抑えることができた。注意を払ったのは、以下の3点である。

- ①支援が滞ることが許されない在宅障害者の居宅介護に数多く入ることができるヘルパーへの感染防止
- ②医療的ケアが必要な人たちへの支援にかかわる生活介護事業所スタッフおよび居宅介護に入るヘルパーへの感染防止
- ③夜間支援に入るヘルパーの住居ごとのグループ化

今後、新型コロナウイルス感染症に限らず何らかの感染症拡大に陥ることがあるだろう。今回のことを教訓とし、感染症対策マニュアルやBCPに反映させることとした。

## (2) 資源の集約について

移転した Prife は、就労移行支援の利用者と就労継続支援 B 型の利用者とのすみわけを進め、特に就労移行支援利用者へ提供するプログラム内容を見直した。また、かねてからの計画の通り、「びんの郷」が竣工し3月に無事引渡し完了した。これにより、1階は「庵」生活介護、2階は「伝」児童発達支援・放課後等デイ、3階は「心」自立訓練（生活訓練）という3事業の多機能事業所が完成した。「Kawasemi」「とことこっと」「いま福の家」を除くすべての事業所を鳴野エリアに集約することができた。

## (3) 地域展開と関係性について

今年度も城東校下ソフトボール連盟の加盟を継続し、年間を通してリーグ戦に参加した。スタッフ・関係者・利用者が不定期の日曜日に集まり、試合や審判・スコアラーの人を担う。楽しみにしている利用者も多く地域の人達との関係づくりの材料としては重要である。また、同連盟の高齢者ソフトボールチームの練習に、利用者4名が自然発生的に参加することができた。特筆すべきは、地域の人達と利用者との間にスタッフが介在していないことである。今年度も継続されていた。

城東区広報誌である「ふれあい JOTO」の戸別配達には、配達先の要援護者の安否確認を含めた重要な役割を担うものである。地域活動協議会からの委託であり、法人が地域と密接にかかわり、その信頼を得ていることを表すものである。毎月初めの1~3日の間(4月と1月は1~5日の間)で、約5,500部を晴雨にかかわらず配布する必要がある。利用者スタッフが地域住民の住居に広報誌を配布し、必要に応じて安否確認をすることは、地域の中での法人の認知度を高めた。

今年度は、少しずつ新型コロナウイルス感染対策が緩和され、小学校区の夏まつりの他、南鳴野商店街のアーケードを活用したイベント、夏まつり等の人が集まるイベントも開催された。

日付	企画・イベントの内容	備考	城東校下ソフトボール連盟
5/5	嶋野ぼっちゃ・モルック大会	法人主催	
7月	七夕飾り	法人主催	
7/23	今福まつり（店舗出店） 聖賢まつり（店舗出店）	今福地域活動協議会 聖賢地域活動協議会	
8/6	城東まつり（中止）	城東地域活動協議会	
10月	路上作品展	法人主催	
11/3	聖賢文化音楽祭	聖賢地域活動協議会	
11/6	信愛学院学園祭	Kawasemi 店舗出店	
11/20	SARUGAKU 祭	SARUGAKU 祭実行委員会	
11/23	嶋野ぼっちゃ・モルック大会	※雨天中止	
12/17	信愛学院防災セミナー	信愛学院	
2/21	聖賢アクションプラン（寄せ植え）	聖賢地域活動協議会	

#### (4) 利用者の状況

法人の資源を古くから利用する人たちは少しずつ高齢化が進んでいる。当たり前のことであるが、利用者本人及びその家族も含めてであり実際に利用者家族の居宅介護支援を担うケースもあった。今後も増加することが予想できるとともに、介護を目的とする住居の準備を進めていかなければならない。

また、2010年ころに指摘され始めた8050問題であるが、さらに10年が経過した。家族の介護負担の増加、家族の死…様々な観点からもしもの時を想定したうえで、日中活動通所時の様子を細やかに観察するとともに普段から家族との情報交換・情報共有を密にできる関係づくりが必要である。

今年度の法人の日中活動事業所の登録者数の推移を分析すると、4月末時点で180名であった登録者数は、年度末で193名に増加した。年間通して13名の増加であり、年度途中の利用事業所の変更希望を受け入れてきた結果である。今福事業所（→Prife）の就労移行支援においては、就職による利用終了や退職に伴う利用開始で増減があった。いま福の家においては、入院・老人ホーム入居による利用終了や他事業所からの利用変更等による増減があった。法人としては、新規利用希望者の事業所見学を相談支援スタッフがコーディネート（複数見学・提案）し、利用者自身が自分に合いそうな事業所を選択できたことも増加の要因であった。

#### 【日中活動事業所の登録者数】

事業所 （月末）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今福/Prife （移行）	7	6	6	6	6	5	6	5	5	5	6	6
今福/Prife （就B）	12	13	13	14	14	14	15	15	15	15	15	16

座座	16	15	15	14	15	15	15	16	17	17	17	17
つむぎ館	22	23	23	23	22	22	22	22	22	22	23	23
Kawasemi	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
杜の Shokudo	14	14	14	13	14	14	14	15	15	15	14	16
庵	24	23	24	25	25	25	25	25	25	24	24	25
げんげん	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
創奏	19	19	19	19	19	19	19	19	20	20	20	20
いま福の家	15	16	16	15	15	17	17	17	16	17	17	17
伝	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
合計	180	182	183	182	183	184	186	187	188	188	189	193

### (5) 余暇活動について

障害のある人にとって、「何をしたらよいかわからない時間」「何をしてもよい自由な時間」を自己決定・自己選択に基づいてどのように過ごすかということは、非常に難しい問題である。私たち支援者と呼ばれる人にとっても同様であり、常に考え続けなければならない課題である。そのうえで、今年度は以下の通り取り組んだ。

#### ①日中活動事業所のプログラム

壁面の飾りつけ作成や、南鳴野商店街で企画するイベントに合わせて、作品を製作した。季節や行事に沿ったものもあればオリジナリティーにあふれるもの等さまざまであった。

また、外出行事・一泊旅行・祝日開所ならでの利用者企画等、工夫が見られた。

#### ②日中活動事業所への外部講師派遣

昨年度に引き続き、外部講師としてその分野の専門家を日中活動事業所に派遣した。

ダンス	げんげん/創奏/つむぎ館/伝/杜のこうさてん
ヨガ	創奏
歌	げんげん/庵/創奏/いま福の家/つむぎ館/杜のこうさてん
アロマセラピー	庵/いま福の家/杜のこうさてん
陶芸	げんげん/創奏/いま福の家/伝/座座
PC	Prife

#### ③クラブ活動及び任意団体の活動

新型コロナウイルス感染拡大を理由に、休止・消滅状態であった団体も復活しつつある。

マラソン部	毎週火曜/18:00~19:00/蒲生グラウンド
ボウリング同好会	毎月第3土曜/10:30~12:30/ ラウンドワン城東放出店
eスポーツ部	毎週月曜/18:00~19:00/Lianの杜2F
一五一会サークル	毎週金曜/17:30~18:30/げんげん2F



#### ④移動支援

そもそもは、本人の希望に基づき利用者が主体となって内容を決定し、外出等を楽しむものである。ヘルパーに限らず日中活動事業所スタッフも利用者本人が自分で決めるようにアプローチしなければならない。しかしながら、支援者がかかわり現実的でなければ変更・修正することが多かった。また、近年ヘルパーの高齢化とその担い手の不足が顕著であり、改善の見込みが見出せない。質の担保と人員の確保の2点において、両立が困難であった。利用者の希望が、ないがしろにされないようヘルパーの質の向上に努めなければならない。

#### (6) スタッフの確保

2022年10月に、厚生労働省が日本における介護職員の必要数を発表した。2019年時点で介護職に219万人が就業している。にもかかわらず、今後の介護職員の必要数は2025年時点で243万人(2019年時点との差32万人不足)、2040年時点で280万人(2019年時点との差69万人不足)と発表した。少子高齢化が進み、生産活動に携わる日本人が減少する中、外国人労働者の採用にシフトしていく事はどの産業にも共通するだろう。

求人募集については、昨年度に引き続き、ハローワークの他、以下の3種を利用した。

##### ①人材紹介業2社(介護職員初任者研修・実務者研修事業を開講/有料)

本体が養成スクールを開講し、資格取得見込み者の希望調査の上、紹介している。紹介担当者とは顔の見える関係であり、法人からも年齢・性別当様々な要望を伝えることができる。一定期間在籍することで、紹介業者に手数料の支払いが生じるが、その期間をクリアした後に退職する傾向がある。

##### ②ネット上の登録紹介サイト(有料)

紹介サイトに登録した求職者が、紹介サイトに登録している法人・企業に応募する。採用した時点で所持資格に応じて手数料が生じるものであり、採用した限りは在籍1日であっても手数料が発生する。求職者としては手軽に応募できるツールである。

##### ③ネット上の求人募集サイト(無料)

求人登録した順番で、サイトの上部に求人が乗り、古いものはページの下の方に移動していく。応募の実績はない。いずれにしてもハローワークのみでは、人員の補充は困難であった。

今年度は、16名を採用し12名が退職した。採用媒体の内訳は次の表のとおりだが、在職年数で見ると14年間勤務のスタッフが2名、そのほか10名は在職3年以内のスタッフであり、うち2名が1年未満の退職であった。アルバイトを含めると、スタッフ数の増加は10名であったが、入職1年であるため人件費の増加は緩やかであった。

雇用媒体	入職（名）	退職（名）	備考
ハローワーク	6	6	1名は在職1年未満で退職
①人材紹介会社 A	2	2	
①人材紹介会社 B	1	0	
②登録紹介サイト（有料）	1	0	
③求人募集サイト（無料）	0	0	
知り合いからの紹介	6	4	1名は在職1年未満で退職
学生アルバイト（留学生含む）	11（8）	5（5）	
合計	27	17	

介護福祉士養成専門学校2年生の日本人学生3名をアルバイト採用し、昨年度からアルバイトとして従事している7名を含め、後の正職員採用を見越した教育・育成を行った。介護福祉士資格取得後の2024年4月にミャンマー人7名、2025年4月にミャンマー人2名、2026年4月にスリランカ人1名を採用予定である。

#### (7) 自閉スペクトラム症に対する取り組み

「大阪市発達障がい者支援センター エルムおおさか」が実施した「成人期支援者スキルアップ事業」に応募し、年間を通じて定期的にコンサルタントの派遣を依頼した。げんげん（生活介護）を利用するOさんの支援について、新たに取り組みつつ随時修正を加えた。大阪市内で5施設がエントリーし、2023年3月にその成果を報告した。これについては、げんげんスタッフに限らず、法人スタッフ有志が月1回の勉強会を開催し、情報を共有した。コンサルタントのアドバイスをメンバーにフィードバックしながら、試行錯誤を積み重ねた。この場で得たものは、法人内の事業所・利用者に還元された。

#### (8) 研修について

##### ①スタッフ研修

毎月第1土曜日に全スタッフを招集し、スタッフ会議を開催した。その際に、外部講師を招いて研修を実施した。内容は以下のとおりである。

日付	テーマ	講師
4/2	「そうそうの杜の歴史と倫理綱領」	グループワーク
5/7	「福祉サービス事業者の質の向上について」	松藤 栄治（大阪市福祉局）
6/4	【虐待防止研修】 「虐待事案が発生する要因・メカニズム」	徳田 昌子（徳田行政書士事務所）
7/2	「ヒヤリハット報告」	グループワーク
8/6	「地域生活者の未来を考える会報告」 ※新型コロナウイルス感染拡大予防（中止）	グループワーク（中止）
9/3	「行動療法についてⅢ」	加藤 美朗（関西福祉科学大学）

10/1	【人権研修】 映画 “I am Sam”を鑑賞して	關 宏之（アドバイザー）
11/5	「地域生活者の未来を考える会報告」	グループワーク
12/3	「強度行動障害」について考える	本谷 研司（阿星山診療所）
1/7	【発表】「事業所紹介」	グループワーク
2/4	【発表】「事業所紹介」 「事故発生時の対応について検証」 映画「いつもの帰り道で 安永健太さんの死が問いかけるもの」	グループワーク
3/4	【発表】「事業所紹介」 「来年度の事業計画について」 「ICT の活用/AI とは？何に使えるの？」	グループワーク

②スタッフ対象の階層別研修（講師：關宏之）

- ・新人スタッフ対象：月2回、3グループ構成、年間通じて開催した。
- ・サビ管・管理職研修：月1回、年間通じて開催した。

章	テーマ	内容
1	はじめに	はじめに・私の仕事・私たちの時代
2	人間と人間行動	①人間について ②人の社会生活・今ここにいること ③行動の構造 $W \cong B = f(O \cdot E)$
3	人権 差別との戦い	①国連における人権に関する宣言 ②多様性と差異 ③排除への抵抗 ④偏見の心理 偏見・差別・絶滅 ⑤憲法第25条 森戸辰男
4	障害者とはだれのことか わが国では	①1959年法（デンマーク） ②ノーマライゼーション ③障害の定義：ICIDHとICF ④障害者を生きる⇔人間を生きる ⑤わが国の障害者定義・スティグマ
5	社会福祉	①社会福祉・語源・福祉国家 ②ベバレッジによる社会福祉 ③日本の施政・しくみ ④わが国の福祉（貧困対応の歴史） ⑤福祉六法と障害者福祉
6	岡村理論	①岡村理論とビバレッジ

		②社会生活上の困難・社会関係 ③主体性（人間の生活）の社会福祉
7	ソーシャルワーカー 社会福祉に携わる者	①人間の欲求・ニーズ ②ニーズ論 ③福祉実践：価値・知識・技術 ④個別支援計画（植田）に学ぶ
8	そうそうの杜	「まちなかの社会福祉」講読 大阪市社会福祉研究 第45号（2022）
9	地域福祉	①地域福祉の流れ ②地域福祉を測る指標（PLI） ③地域とは
10	人と労働	①職業・労働 ②障害者雇用の隘路と企業責任 ③障害者雇用の歴史・制度・支援の流れ・援護就労 ④障害者権利条約・制度・課題
11	リハビリテーション	①語源・意味 ②リハと地域リハ
12	当事者の視点	①IL運動・NO PITY ②Iam Sam（映画鑑賞） ③弱者救済の幻影
13	差別・被差別 格差是正 社会的公正	①ダイバーシティー ②積極的差別撤廃措置（AA） ③AAを巡る議論 ④アメリカが遭遇している問題 ⑤サンデルと政治哲学
14	基礎講座 まとめ	①今日の社会福祉 ②社会福祉実践の三要素 ③岡村理論の総括 ④障害定義・AA・社会的排除から・ソーシャルファーム ⑤社会福祉法人とガバナンス ⑥われわれの立ち位置

### ③サビ管・管理職の講師派遣

大阪国際福祉専門学校2学年対象「障害の理解Ⅱ」

毎週（木）3限目 13：20～14：50

それぞれの分野において、事業と利用者の様子を講義。利用者が同行し、講義する機会を作ることができた。

日付	講師	講義内容
5/12	真頼	社会福祉法人そうそうの杜の障害者支援の状況
5/19	仲澤	GH・SS・下宿屋・地域生活について
5/26	川内田・中世古	就労支援・就ポツ・具体的なケース
6/2	奥野	障害・介護保険、ヘルパー派遣、具体的なケース
6/9	林	相談支援事業の実際
6/16	樋口	障害児支援の実際
6/23	橋本・田島	生活介護の実際／障害の重い知的障害者の支援
6/30	国本・板見	自閉スペクトラム症者への取り組み・農福連携
7/7	山川	総括
7/14	真頼	7/21（木） 前期試験 の説明
7/21	真頼	7/21（木） 前期試験

### 3.事業について

#### (1) 相談支援事業について

サービス等利用計画を作成する…書類作成のみを代行することが相談支援ではない。これを前提としたうえで、法人の特徴である地域で暮らす人たちの地域定着支援を丁寧に実施し、モニタリングを積み重ねてそれぞれの暮らしに反映させたい。本人の想いを引き出しながら、周囲の事業所・関係者を巻き込むことが重要である。法人全体で地域生活を支える体制を作る以上、全体会議の場で相談支援従事者であるすべてのスタッフに、地域定着支援の理解と実践を求め続けた。

#### (2) 就労支援事業について

法人には5カ所の就労支援事業所がある。それぞれに役割・機能・特色があり、年度途中であっても、それぞれの利用者にあった事業所を選択したり提案することができた。ただし、現行制度における就労継続支援B型については、その工賃至上主義・工賃倍増の考えが多くの利用者と事業者の実態に反したものとなっている。福祉的就労という本来の意味を持った就労継続支援B型のあり方を、今一度、考えなければならぬと感じられた。

##### ①「Prife」（就労移行支援/就労定着支援/就労継続支援B型）

今年度、「今福事業所」は、「Prife」として名称変更し東中浜への移転が完了した。環境の変化は、利用者にとって新たな取り組みをするうえで重要なタイミングとなった。作業中心であるが、就職を目指す位置づけの事業所である。前述した通り、移転をきっかけに環境を整備し、プログラムを再構築することができた。特に、就労継続支援B型利用者と就労移行支援利用者の住み分けに重点を置き、それぞれの目的を明確にした。ただし、利用者の希望に応じて柔軟に対応できた。

##### ②「座座」（就労継続支援B型）

内職作業の受注中心ではあり、自閉スペクトラム症の利用者支援に特化した事業所である。何をすべきか…音声言語で指示されるよりも、視覚的に本人が分かる手法を常に模索した。本人が分かる手法を試行錯誤し、本人が活動しやすい環境整備に取り組んだ。利用者の多くは、法人の下宿屋

や他法人が運営するグループホームに入居している。座座での実践を発信し、それぞれの支援にフィードバックした。

③「つむぎ館」(就労継続支援 B 型)

内職作業の受注中心ではあるが、新たな作業としてフクナガエンジニアリングでの企業内での作業を、週1回のペースで定着させることができた。この環境にとどまるのではなく、ステップアップを働きかけた利用者1名が「Prife」へ移行した。

また、創作活動の時間を設け、希望する利用者は独自のアート作品を製作している。事業所前の壁面を美術館とし、作品を展示した。

④「Kawasemi」(就労継続支援 A 型)

飲食部門を担う事業所の1つである。調理(補助含む)、接客、配膳、会計、食器洗浄などレストランとしての業務。7時間労働、社会保険完備、業績によって賞与支給されるので、利用者に求める業務水準は高い。一部、精神状態により短時間設定を余儀なくする利用者もあるが、そのほとんどが、休むことなく業務に従事することができた。また、Lianの杜(菓子・パン製造販売部門)を組み合わせ、責任のある役割を持たせることができた。

⑤「杜の Shokudo」(就労継続支援 B 型)

飲食部門を担う事業所の1つである。調理(補助含む)、配食・弁当の盛り付け、テイクアウトの販売、食器洗浄など一定量の作業をこなすことが必要であり、工賃設定も他の就労継続支援 B 型と比較すると高い設定ができた。また、Lianの杜(菓子・パン製造販売部門)を組み合わせ、飲食業務を希望する多くの実習希望者を受け入れた。しかし、実習者が考える以上にハードであるためか、Kawasemi 含め利用に至ることはなかった。

(3) 生活介護事業について

法人には4カ所の生活介護事業所がある。利用者の高齢化や体調の変化に応じて事業所を選択し、将来を見越したうえで事業所変更を提案することができた。それぞれに外部講師を活用し、日中活動充実を目指すとともに、利用者とスタッフが何をすることも一緒に楽しむことで、自宅で過ごす時間とは異なる活動時間を作ることができた。

①「庵」(重症心身障害者を含む身体障害のある人が利用主体)

自宅での入浴が困難な利用者が多く、医療的ケアが必要な利用者も多い。入浴・排泄・食事における介助度も高くマンツーマンに近い対応が必要である。そのような中で、歌の時間やアロマセラピー等、集団で実践できるプログラムを取り入れ、時間の過ごし方を工夫することができた。

②「げんげん」(重度知的障害のある人が利用主体)

言葉のない利用者が多く、スタッフの対応がその人の行動にダイレクトに影響する。会話が成立しにくい利用者の思いをいかにイメージできるかが、スタッフの資質を試される事業所である。今年度は、「大阪市発達障がい者支援センター エルムおおさか」が実施した「成人期支援者スキルアップ事業」に応募し、年間を通じて定期的に訪問するコンサルタントのアドバイスを手掛かりに、Oさんの支援を組み立てることができた。Oさんの支援をきっかけに、事業所全体の環境整備を進めることができた。

③「創奏」(作業と創作活動とだがしやさんの運営、知的障害のある人が利用主体)

創作活動に重点を置き、実際に作製した作品を南鳴野商店街に飾り付けることができた。具体的には、タペストリーやクリスマスツリーであり季節に応じたテーマで定期的に創作活動を実施した。また、南鳴野商店街のだがしやさんは、少しずつ地域のお客さんも買いに来てくれるようになった。近隣の事業所・企業等にも訪問販売する機会を設け、その認知度も上げることができた。1つの事業所ではあるが、活動内容が大きく異なり利用者自身もメリハリをつけることができた。

④「いま福の家」(介護保険の地域密着型高齢通所介護との共生型生活介護)

基本的には高齢通所介護であり、利用者のほとんどは高齢障害者である。その集団に、作業に乗らない利用者や後の移行を考慮して週に1日通所等、部分的な利用を取り入れてた。内部の活動である「地域生活者の未来を考える会」の指針に基づき、計画的にアプローチできた。

(4) 児童福祉事業について

「伝」(児童発達支援/放課後等デイサービス)

学校における新型コロナウイルス感染拡大に伴い、5月に2日間事業所を閉所した。全事業所で取り組む事業所内の消毒作業は、当事者の動機づけにおいて一定の効果が認められたと思われる。

近年、放課後等デイサービスは、長時間・夜間帯の預かりの親のレスパイトや宿題実施・学習塾型、運動プログラム実践等の様々な特色を打ち出す事業所が乱立している。これらの事業所との競争の上で、「遊び」「感情表出」「感覚統合」をテーマに集団療育と個別療育の中で様々なプログラムとして取り入れた。ただし、児童一人一人の分析が不十分であり、スタッフ間で共通理解が図られていなかったこともあったものの、短時間でもそれぞれに個別療育の時間を設けることができたことは成果であった。また地域の子どもたちとの遊びを通じた関係づくりも自然発生しており、伝の実践の成果と特色である。

(5) 介護保険事業について

いま福の家については前述したとおりであり、高齢化やその人の特性に応じて現在通所中の生活介護事業所から段階的な移行を試みた。

居宅介護支援については、法人内の障害福祉サービス利用者の高齢化に伴い、契約者についても少しずつ増加している。家族支援を実践する成果から、利用者の家族が新規契約となった。

(6) 地域生活サポート事業について

昨年度、地域生活サポート事業の下宿屋(住居)契約を締結している利用者は55名であったが、今年度は66名に増加した。座座/座の2・3Fにある6名定員の「座-kura-」が満床となり、その運営が軌道に乗せることができた。今後も家族の高齢化、利用者の高齢化に住環境を整える必要があり、今年度は見学会を3回開催した。延べ34名の家族・利用者が参加し需要の高さを実感することができた。

(7) ホームヘルプ事業全般について

新型コロナウイルス感染が法人内事業所にも拡大し、ヘルパー派遣業務が一時的に立ち行かなく

なった。①陽性者に対応するヘルパー、②陽性疑いの居宅介護に対応するヘルパー、③医療的ケアのある人の居宅介護に対応するヘルパー（感染厳禁）と3つに分類していたが、常勤ヘルパーの7割が順番に感染した。その影響を大きく受けたのは、同行援護と移動支援であった。社会的な移動制限・移動自粛などの要因もあるが、根本的には担い手としてのヘルパーの不足が原因である。数年前から、言われていることだが登録ヘルパー（居宅y・移動支援他）を増やすには至っていない。

8月の感染拡大ピーク時には多くのヘルパー派遣を中止せざるを得なかった。そのような中でも、陽性者に24時間対応でヘルパー派遣を集中したケースもあった。対象者は介護保険の訪問介護利用者であり、8月実績は昨年比の125%であった。

	2021年8月度実績	2022年8月度実績	前年比(%)
居宅介護	6,994	6,471	93%
重度訪問介護	9,127	8,659	95%
同行援護	718	410	57%
移動支援	1,223	1,031	84%
訪問・予防	1,222	1,522	125%
合計	19,284	18,093	94%

(千円)

#### (8) 大阪市委託事業について

##### ①地域子育て支援拠点事業

1/8にプロポーザルの結果62点で合格となった。城東区の南部エリアに必要な資源として認知されており、外部講師が派遣されるプログラムに限らず人気が高かった。大阪市内の感染拡大がピークであった時期は、大阪市の指示により閉鎖したことがあった。

##### ②大阪市就業・生活支援センター

今年度の登録者数は607名であった。うち、知的障害のある人は43%であり、次いで精神障害のある人が35%であった。新規相談については、年々精神障害のある人の相談が増加している。一昨年度から、精神障害のある人の相談が知的障害のある人のそれを上回っている。大阪市内の他センターでも同様であり、支援学校卒業生の相談に加え普通高校・専修学校・短大・大学からの相談も増加しているとのこと。

また、就労先としての一般企業と就労継続支援A型事業所との比率は、昨年度一般企業への新規就労が59%に対して、今年度は66%と増加した。法定雇用率達成代行ビジネスが問題視される中、就ポツとして就労先候補の企業を精査しなければならない。

#### (9) 地域生活支援等拠点事業について

今年度、大阪市がようやく地域生活支援拠点事業に対して重い腰を上げ、実施事業体の登録に踏み切った。12月に「大阪市障害福祉サービス等事業所等地域生活支援拠点等整備要綱」を制定し、各区の障がい者基幹相談支援センターや自立支援協議会に協力を呼び掛けた。そうそこの杜としては、生活支援において様々な資源（日中活動・相談支援・短期入所・居宅介護等）を組み合わせ、



緊急を要するケースに対応してきた実績がある。これまで実施してきた支援の仕組みを、地域生活支援等拠点事業に置き換えることは自明の理であり、①計画相談 ②地域定着支援 ③居宅介護 ④短期入所の4事業所を地域生活支援拠点として登録した。

(10) 経営状況の比較について

WAMが発表したデータによると、2021年度の社会福祉法人の経営状況において、赤字法人は黒字法人と比べて従業員数及びサービス活動収益が少なく、従業員1人当たりサービス活動収益が低かった。下のデータの通り、本法人と全体及び障害福祉を主体とする法人とを比較すると、本法人の人件費率は高かった。また、従業員1人当たりのサービス活動収益と人件費については、他法人では2021年度に比べて2022年度が増加しているが、本法人においてはいずれも減少していた。中途採用の新入職員が9名増加し、人件費が抑制されたためであった。また、外国人留学生アルバイトは、居宅介護としてのサービス活動が禁止されており、収益に結びつかない。従って、従業員1人当たりの活動収益は低下した。

区分	2021年度			障害主体1,189法人の平均		そうそこの杜	
	黒字5,737 法人の平均	赤字2,614 法人の平均	差額	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
従業員数	125.5人	109.5人	16.0人	103.7人	105.3人	125人	134人
サービス活動 収益	774,943	645,163	129,780	632,445	644,271	793,614	819,431
サービス活動 費用	737,617	667,875	69,742	613,122	628,664	777,494	794,627
サービス活動 増減差額	37,326	-22,712	60,038	19,322	15,607	16,119	24,804
人件費率	66.1%	70.5%	-4.3%	66.0%	66.4%	69.5%	70.9%
従業員1人当たり サービス活動収益	6,175	5,894	281	6,096	6,119	6,349	6,115
従業員1人当たり 人件費	4,083	4,153	-70	4,024	4,062	4,326	4,207

(千円)

[参考資料：WAM 2023.4月号]

# I 相談支援

## 地域生活支援センターあ・うん 相談支援（特定・一般・障害児） 事業報告

### 【総括】

事業所としての体制は大きく変わることなく年度を終えることができた。従事している相談支援専門員は全員が現任研修を受講し、人によっては2回目の現任研修を受講する相談員も出てきた。現に契約をしている利用者や家族に対しては安定した関わりを維持できた。

人員が足りないのはどの事業でも同じだが、相談支援に関しても同様である。基本的に新規契約は難しい状況があるのだが、別法人の相談支援事業所の閉鎖に伴い、10名超の新規利用者の受け入れを短期間に行った。これは地域の資源としての役割であり、そうそうの杜の法人としての姿勢である。

今年度の末に事業所の看板を見て飛び込みで相談に来た人（引きこもりのお子さんのいるご両親）がいたのだが、月に一度の訪問を実施するも本人とはまだ出会えていない。いつか出会えるように、本人のペースに合わせた関わりが重要である。相談支援は人と人、人と資源、資源と資源を結び付けていくことがその役割であり、他の障害福祉サービスに結びつけることが役割なのではない。請求に挙がってくることはない出会いの一つだが、このような相談の一つ一つを大切にしていくことを事業所・相談員で共有した。

また、年度末に地域生活支援拠点の登録を行った。地域生活支援拠点としての役割を担っていくのは次年度以降となるが、地域定着支援と同じく、そうそうの杜が大事にしてきたことが制度化された結果である。

### 【事業課題】

#### 1：新規契約について

相談支援に対するニーズは年々上がってきているものの、契約を希望する全ての人の受け入れができなかった。

#### 2：計画作成時の請求漏れ

ほとんどの利用者は1年に一度障害福祉サービス受給者証の更新のためにサービス等利用計画の作成が必要であるが、請求にあがってくる計画の作成件数が利用者数よりも40件程少なかった。請求漏れが無いような書類の処理方法を確立しなければならない。

#### 3：研修参加について

法人全体への研修についてはどの相談員も参加しているが、外部研修となると相談員ごとにばらつきがあった。

#### 4：経験年数の少ないスタッフとのやりとりについて

勤続年数の少ないスタッフと話をする場を設けると計画したが、実際の業務の中でそのような場を設けることはできなかった。

## 【事業成果】

### 1：地域定着支援について

昨年度比で緊急時支援の回数が500回程増えた。件数が増えた要因としては対応したことを記録に残すということを全体が意識した結果と言える。しかし特筆すべきは法人内部でコロナ陽性者が続出した際に体制を組み、緊急時支援で泊り対応等を行ったことで著しく緊急時支援の回数の多かった月があったということである。法人の姿勢と非常に相性の良い制度である。

### 2：新規契約に関して

他事業所閉鎖に伴う10件の新規契約を含み、年間を通して20件の新規契約となった。

### 3：各事業所でのモニタリングに関して

実際のサービス提供の現場でモニタリングを行うと、利用者やスタッフの様子を見ることができるメリットが大きい。法人内部のサービスを利用している方が多いので、現場でのモニタリングがしやすい環境にある為、昨年度比では20件程増加した。

### 4：ケース会議について

通常、何か大きな出来事があった時や、計画作成時に行うことの多いケース会議だが、数名においては月に一度、二週に一度というスパンでケース会議を実施した。横のつながりも強くなり、利用者本人も場に慣れ、思っていることを言いやすくなった。

### 5：相談ミーティングについて

相談員はそれぞれが担当しているケースに関わるのが基本となる。関わりが行き詰まった時や、どう対応すれば良いのかわからなくなった時に他の相談員とすぐにやりとりできるのは相談員が複数名いる事業所の強みである。他の相談員の関わっているケースの状況を把握できるように、あるいは急遽対応することになった時に備えて、毎週金曜日にミーティングを実施した。結果、大きな動きに関してはどの相談員もケースの動きを把握しているような状況を作ることができた。

【数値指標】

	2021 年度	2022 年度
特定相談	契約者：159 件 計画：125 件 モニタリング：881 件 請求額：¥20,321,000-	契約者：170 件 計画：125 件 モニタリング：846 件 請求額：¥19,821,728- 当初予算：¥20,500,000- 補正予算：¥20,810,000-
一般相談(地域定着支援)	契約者：102 件 緊急時支援：1547 件 請求額：¥15,827,000-	契約者：102 件 緊急時支援：2045 件 請求額：¥20,050,001- 当初予算：¥16,400,000- 補正予算：¥20,000,000-
障害児	契約者：18 件 計画：17 件 モニタリング：16 件 請求額：¥835,000-	契約者：20 件 計画：17 件 モニタリング：7 件 請求額：¥540,825- 当初予算：¥792,000- 補正予算：¥695,000-
新規相談	相談：66 件 うち、内部資源利用：7 件 (およそ 11%)	相談：62 件 うち、内部資源利用：13 件 (およそ 21%)

## II-2 就労グループ

### (1) Prife (就労移行支援・就労定着支援・就労継続支援 B 型) 事業報告

#### 【総括】

今年度 5 月に今福地域から東中浜地域に移転その際名称も今福事業所から Prife (プライフ) に名称変更し新たな環境で気持ちも新たに活動している。

就労移行支援は、2021 年度後半は定員 6 名に対して、3~4 名で推移していたが、2022 年 4 月には支援学校卒の利用者 1 名、同事業所の就労継続支援 B 型から 1 名が就労移行支援に登録になり 6 名スタートすることができた。9~12 月にかけて 2 名の登録者が特例子会社へ就職することができた。結果、一時的に登録が 5 名になったが企業から退職後に就労移行支援からリスタートを切る利用者 1 名が登録になったことで、最終的には登録者 6 名で終わることができた。しかし、登録こそあったものの通所が安定しない利用者もいたため今後は利用日数の増加が課題である。

前年度は事業所の移転があり、そのタイミングでシステムキッチン を 2 台導入した。キッチンを活かせるよう就労移行支援のプログラムとして調理をする時間を隔週で組み込んだ。

メニューを計画し、実際に買い物、調理、振り返りをするまでを 1 セットとしたプログラムも取り入れた。計画の段階で、それぞれの利用者が思い思いに食べたい料理を提案し話し合い最終的にメニューを決めて実際に調理をする流れで行ってもらったが話し合いにかなりの時間を要してしまうのが来年度に向けての課題である。他にプログラムとして就労準備プログラムや SST など取り入れ、就職を目指すだけでなくその先で安定した就労を目指すための座学プログラムも行った。さらには、PC・タブレットを使用してロボットに命令を出すプログラミングも始めることができた。

就労移行支援登録者の中には就労経験のない利用者もいるため、その方に向け企業への体験実習(運送会社)への参加も行った、初めて実際に企業での勤務を体験することができ、体験した 2 名ともに初日は緊張していたものの最終日には自信に満ちた表情を見ることができた。実習以降、少しずつ本人たちの意識も変わってきており、行動が積極的になってきた印象を受けている。自分から発信することが苦手な利用者や自己肯定感の低い方に対しての企業実習は経験を重ねるととても良い機会になった。

就労定着支援については前年度より 5 月から 2 名、3 月から 1 名の合計 3 名の増加となった。定着率に関して、1 名退職者はいたが定着率 85% と高水準を保っている。

就労継続支援 B 型については、余暇的な活動を新たに取り入れた。就労移行支援の料理プログラムと一緒に参加し料理を作ったり、週 2 回(火曜日、金曜日 1 つの製作周期事に 5 名参加)の陶芸教室に参加したりと日中の中でも作業だけに取らわれずメリハリをつけながら作業も遊びも目一杯楽しんでいた。

また、新型コロナウイルス感染症の勢いは少なくなってきたとは言え、まだまだ感染リスクが残っている。その中ではあったが、感染対策をしっかり行い祝日は基本外出行事を行い仕事と余暇のメリハリを一層つけた活動を行うことができた。

## 【事業課題】

- ①登録者の利用日数を増やす
  - ・毎日楽しいと思って来てもらえるよう定期プログラムの内容を見直し、利用者との対話する時間を設ける。
- ②就労移行支援プログラムの定着
  - ・前年度は新しくはじめたプログラム（調理やプログラミング、PCトレーニング）について定着をはかるため、明確にスケジュール化し項目についても限定させるとともに、身体を動かすプログラムを追加する。
- ③企業への体験実習
  - ・企業での実習に参加し、どのような仕事があるのか知ってもらう機会をつくる。
- ④日中活動・新たな作業について
  - ・菊芋の栽培と菊芋茶の生産・販売を考えていたが、近場に農地を見つけられなかったこともあり実現には至らなかった。
  - ・移転により作業スペースが小さくなった分、物品の多さが目立ち整理整頓が出来ていなかった。年間通して少しずつ整理できた。
- ⑤利用者家族との関係づくり
  - ・家族さんとの定期的なコミュニケーションがとれなかった。

## 【事業成果】

- ①就労移行支援
  - ・ロボプログラミング・PCトレーニングを実施した。特にロボットプログラミングに関しては、PC・タブレットを使用するなど新たな体験を提供できた。
  - ・ビジネスマナーやSSTに関して、これまでのプログラムを見直し、基礎から学ぶ講座を始めた。
  - ・就労だけにポイントを置かず、生活に目線を合わせた取り組みを実施した。具体的には、システムキッチンを使用した調理のプログラムであり、日常の生活面にも働きかけられるよう取り組んだ。
  - ・今年度は、特例子会社への就職者が2名あった。いずれも実習を通じての就職であった。1名は紙すきの企業で勤務。1名は飲食店での清掃業で勤務。
- ②就労継続支援B型
  - ・就労継続支援B型利用者が就労移行支援利用者と一緒に料理プログラムに参加し、調理した。
- ③移転の結果
  - ・今福事業所の環境では、3階建てで利用者がバラバラ、スタッフもすべてを把握することが困難な環境下ではあったが、5月に移転し2階建て物件で利用者も良く見え、様子を把握しやすい環境設定ができた。

開催行事			
4月	鶴見緑地 BBQ	10月	そうそこの杜大運動会
5月	鳴野ポッチャ・モルック大会	11月	聖賢文化音楽祭（観覧）
6月	天芝・天王寺動物園	12月	忘年会、もちつき
7月	就労一泊旅行（湖水浴）	1月	初詣・鶴見緑地公園
8月	祝日に料理対決 （2チームに分かれ韓国料理 VS 日本料理）	2月	車いすバスケット観戦 就労一泊旅行（三重県） 防災センター・天王寺動物園
9月	ぶどう狩り 水かけ祭り（ハイキング） そうそこの杜ポッチャ大会	3月	王子動物園

【数値指標】

就労移行支援・就労定着支援				
事業種別	就労移行支援		就労定着支援	
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
利用者定員数（人）	6人	6人	なし	なし
利用者延べ数（人）	1170人	1257人	39人	69人
開所日数（日）	260日	259日		
1日平均利用者数（人）	4.5人	4.8人		
稼働率 （就労定着支援は定着率）	75%	79%	100%	85%
年度内就職者数（人）	3名	2名	なし	なし
職員配置	管理者兼サービス 管理責任者 1名 職業指導員 1名 生活支援員 1名 就労支援員 1名	管理者兼サービス 管理責任者 1名 職業指導員 1名 生活支援員 1名 就労支援員 1名	管理者兼サービス 管理責任者 1名 就労定着支援員 1名	管理者兼サービス 管理責任者 1名 就労定着支援員 1名

事業種別	就労継続支援 B 型	
	2021 年度	2022 年度
利用定員	14 名	14 名
開所日数	260 日	259 日
利用者延数	3,826 人	3,354 人
1 日平均利用者数 (人)	21 人	20 人
稼働率	105%	92%
平均工賃 (月額)	27,008 円	22,705 円
職員配置	管理者兼サービス管理責任者 1 名 職業指導員 1 名 生活支援員 1 名 目標工賃達成指導員 1 名	管理者兼サービス管理責任者 1 名 職業指導員 1 名 生活支援員 1 名 目標工賃達成指導員 1 名
	Prife (就労移行・就労定着・就労 B)	
	2021 年度	2022 年度
総収入	48,624,000 円	48,582,000 円
総支出	48,458,000 円	49,044,000 円
収支差額	166,000 円	- 462,000 円
障害福祉サービス事業収入	40,995,000 円	41,680,000 円



## (2) 座座（就労継続支援 B 型） 事業報告

### 【総括】

2021年4月に座座が新しく立ち上がり2年が経過。定員20名の就労継続支援B型事業所として2021年4月当初の登録者は13名から始まり、現在定員数に届くこととなった。ただ今年度もコロナウイルスの影響あり利用数が軽減することもありましたが、消毒、手洗い、清掃等、衛生面や健康面を意識することで事業所が閉鎖することなく開所することができた。外出行事等利用者が楽しみにしていた行事は減少することになりましたが代わりに事業所内での行事をして楽しんでもらった。

事業所内での環境作りを見直し、全体が見渡せる為の環境作りや食事の時間では休憩や作業のメリハリができるように食事スペースの設置。個々にあった作業スペースの構築を行い以前まで休憩場所で作業をされていた利用者に長机で仕切りを作り休憩場所、作業場所が分かるように作り切り替えて作業ができるようになった。

作業方法としてトークンエコノミー法を起用することで好きなものを通じて以前まで休憩室から中々出てこなかった利用者も今では作業場での席に長く座ることができており、作業以外にも出勤時のハンコや洗濯、洗濯干し等でハンコを貯めることでご褒美を獲得できるなど、色々な利用者にも応用できた。

作業収入については前年度よりも上がってはいるものの、皆勤で通所されている方で月によっては1万円の工賃を下回る月があった。

2022年の11月中旬からスタッフ1名膝の手術の為長期休暇を取る事になり、スタッフの人数が減った状態となるが何とか乗り越えることが出来た。

座座では自閉スペクトラム症の利用者への構造化を中心に取り組んだ。月に1回、法人内で実施する自閉スペクトラム症研究会での検討内容をフィードバックした。各事業所の報告（取り組み、利用者対応など）を共有することで、スタッフのスキルアップとともに、自閉スペクトラム症のある人が過ごしやすい環境づくりの一助となった。

### 【事業課題】

- ・新規スタッフにスキルアップの為、積極的に研修に参加させた。
- ・座座で土台を固めていくことが必要な利用者ではあるが、次の展開（就労移行支援や就職等）へのステップアップを提案することがなかった。

### 【事業成果】

- ・作業の幅が広がり作業の種類も増え、作業収入が増加した。
- ・作業環境の作り直し、利用者の個別スペース（扉付き）等、利用者が過ごしやすい環境を作ることで自分の席で作業に集中する時間が長くなった。
- ・余暇の充実と部署内での交流も兼ねてハイキングを実施。スタッフ、利用者共に楽しみながら活動することが出来た。

開催行事			
4 月	バーベキュー	10 月	そうそこの杜大運動会
5 月	しぎのぼつチャ・モルック大会	11 月	聖賢文化音楽祭（観覧）
6 月	天王寺動物園（ハイキング）	12 月	クリスマス会/忘年会/もちつき
7 月	餃子パーティー（事業所内） 就労旅行（湖水浴）	1 月	初詣
8 月	たこ焼きパーティー（事業所内）	2 月	焼き芋作り（事業所内） 車椅子バスケット観戦（ハイキング） 就労旅行（三重県）
9 月	ぶどう狩り 水かけ祭り（ハイキング） そうそこの杜ボツチャ大会	3 月	大阪城梅林 バーベキュー

【数値指標】

	2021 年度	2022 年度
利用者定員数（人）	20	20
利用者延数（人）	3,289	3,276
1 日平均利用者数(人)	12.6	12.6
稼働率	63%	63%
総収入	29,005,194 円	27,700,000 円
総支出	27,431,268 円	24,781,000 円
収支差額	1,573,926 円	2,919,000 円
作業収入	1,257,723 円	1,539,818 円
工賃総額	1,189,000 円	1,340,900 円
工賃平均額	7,077 円	7,533 円
障害福祉サービス収入	27,747,471 円	26,000,000 円
職員配置	管理者兼サービス管理責任者 1 名 生活支援員 2 名 職業指導員 1 名 目標工賃達成指導員 1 名	管理者兼サービス管理責任者 1 名 生活支援員 2 名 職業指導員 1 名 目標工賃達成指導員 1 名

### (3) つむぎ館（就労継続支援 B 型） 事業報告

#### 【総括】

余暇活動の重視、少人数グループでの活動を取り入れ1年間を通して「楽しむ」ということには、利用者・スタッフ全体が力を注いできた。集団で活動（作業）することが当たり前になっていることから、個別の関わりや活動時間を再度意識し、活動時間の組み直し等も行なった。集団が苦手な方、刺激からの影響等グループの編成も考慮し、時間をずらすことで、個々への関わりに少しの余裕ができた。また、室内の人数も調整できたことで混雑解消にもなった。集団が苦手な通所日数も少ない利用者へは、行事の準備・参加のアナウンスを行ない、作業以外の目的で来るということから通所を促してきた。一時的には来ることが出来ても、定着には至らなかった。

創作活動（裁縫、絵画等）の曜日を決めて行なったが、利用者の気持ちの波やスタッフの動き、新型コロナウイルス感染症等が理由で、一つの作品が仕上がるまでに時間を要した。日時を固定にすることで、その時間は「裁縫をする」と切り替えにはなった。随時、創作等も取り入れることで、作業への意欲も少しではあるが上がり、メリハリをもって取り組むことには繋がった。しかし、工賃を向上させることができなかった。工賃をあげるために作業ばかりに追われてしまうことよりも、利用者・スタッフ共、良かったと思える日々のため、活動内容の充実を図った結果ではあるが、低い時間給で工賃を維持していくという状態であった。

#### 【事業課題】

- ・作業と創作活動等のプログラムを計画的に実施できなかった。
- ・スケジュールが維持できるようにスタッフの動きを柔軟にしていく。
- ・作品の展示は定着したが、販売にまでは至らなかった。

#### 【事業成果】

- ・グループで活動することでの相互効果が大きかった。意欲的に取り組む人がいると、少しずつ周囲も興味を持って取り組み、全体に広がっていった。
- ・グループが団結し始めると、全体に広がり行事、作業共に一体感ができた。
- ・時間差を作って動くことで、空間にも活動にも余裕ができた。

開催行事			
4月	桜の通り抜け（造幣局）	10月	そうそうの杜大運動会
5月	しぎのぼっちゃ・モルック大会	11月	SARUGAKU 祭（ダンス）
6月	天王寺動物園（ハイキング）	12月	クリスマス会/忘年会/もちつき
7月	餃子パーティー 就労旅行（湖水浴）	1月	鶴見緑地公園（ハイキング）
8月	たこ焼きパーティー	2月	ボウリング/たこ焼き作り 車椅子バスケット観戦（ハイキング） 就労旅行（三重県）
9月	ぶどう狩り 水かけ祭り（ハイキング） そうそうの杜ボッチャ大会	3月	水上バス/プラネタリウム

【数値指標】

	2021年度	2022年度
利用者定員数	20名	20名
登録者数	23名 (2022年3月31日時点)	23名 (2023年3月31日時点)
稼働率	85%	84%
利用延べ人数	4,410名	4,360名
1日平均利用者数	17.0名	16.8名
月平均利用者数	368名	363名
総収入	37,256,342円	38,300,000円
障害福祉サービス等事業収入	34,414,566円	34,150,000円
総支出	26,178,689円	30,287,000円
収支差額	11,077,653円	8,013,000円
作業収入	1,333,270円	1,586,154円
工賃総額	1,188,856円	1,415,600円
平均工賃	5,357円	5,112円
職員配置	管理者兼サービス管理者 1名 生活支援員 2名 職業指導員 1名 目標工賃達成指導員 1名	管理者兼サービス管理責任者 1名 生活支援員 2名 職業指導員 1名 目標工賃達成指導員 1名

## (4) Kawasemi・杜の Shokudo 事業報告

### Kawasemi（就労継続支援 A 型）

#### 【総括】

Kawasemi は口コミによる料理の評価と認知度の向上が大きな成果として挙げられる。我々の発酵薬膳への取り組みは、顧客の間で高い評価を得ており、その結果として売り上げの伸びにつながった。さらに、土曜日の営業開始が追い風となった。

新型コロナウイルスの影響が落ち着いてからも、テイクアウト弁当の需要は依然として高く、順調に売り上げを伸ばすことが出来た。3月には新たな取り組みとして、お花見弁当を考案し、販売することができた。また、利用者が考案した料理をスタッフと共に商品として形にできたことは大きな成果であった。

#### 【事業課題】

##### 1.お子様メニューの開発

お子様向けのメニュー開発を予定していたが、この目標を達成することは出来なかった。お子様向けのメニューは、家族全体での来店機会を増やすための重要な要素であり、新たな顧客層の獲得にも寄与すると考えられる。

##### 2.売り上げ拡大のための新商品開発

季節感を活かした商品開発を強化し、売り上げ拡大を図ることが必要。テイクアウト弁当を季節ごとに考案したり、季節の御膳を提供するなどの一部にとどまった。

#### 【事業成果】

初めに、利用者参加型の料理開発が新たな自信と経験をもたらす機会になったことが重要な成果の一つだった。利用者が自ら副菜を作ることで、新たな自信が芽生え、それが次なるメイン料理や季節のデザート案を提出するための切っ掛けとなった。これは我々が重視する利用者の参加と成長、さらにはコミュニティ全体の活性化に寄与したといえる。

次に、当店の口コミによる評価と認知度の向上は、事業所の評判を一段と高める結果となった。多くのお客様が来店され、人気店としての地位を確立できた。

## 杜の Shokudo (就労継続支援 B 型)

### 【総括】

利用定員は3月末で13名に達し、障害福祉サービス訓練等給付としては安定した収入を維持することができた。しかし、全体の業績に影響を与える物価高騰の波を受け、仕入れ額の上昇が避けられなかった。

Instagramを通じた宣伝活動は、来客数の一部増加につながったが、売上の大きな波及効果は見られなかった。一方、区役所での弁当・お菓子販売は非常に好調で、安定した収益を確保することができた。

杜の Shokudo は利用者にとって働く場であり、居場所の場でもある。その視点を忘れずに運営を進めてきたが、利用者参加の機会提供と楽しさを増やすことができず、利用者と向き合う時間を設けることが少なかった。

### 【事業課題】

#### 1. 杜の Shokudo

総菜販売や喫茶メニューの充実を図ることで、工賃増額を目指すことが必要。利用者自身が料理やまかないを作る取り組みが実現できなかった。

#### 2. 杜のざっかや

商品の入れ替えが難しく、売り上げが伸びなかった。

#### 3. 陶芸

地域の方々に定期的に陶芸教室に参加してもらう取り組みが困難だった。

#### 4. Lian の杜

季節のイベント（例：バレンタインなど）に対応した商品展開が不足していた。

### 【事業成果】

#### 1. 弁当販売の拡大

週2回城東区役所での弁当販売を開始したことにより、より多くの方に Kawasemi・杜の Shokudo の存在を知ってもらい、売り上げの増加につながった。

#### 2. Instagram の活用

杜のざっかやさんの利用者が受講した写真撮影講座の効果を生かし、毎日更新することで来店客数が増加した。また、商店街でのイベントへ参加する事によりざっかやさんの認知度向上に成功した。

#### 3. 陶芸プログラムの発展

実用的なお皿作りが可能となり、無人販売でも売れるようになった。これは、陶芸プログラムが新たな収益源として機能し始めたことを示している。

#### 4. Lian の杜

シフォンケーキの種類を増やす事で、リピーターが増え安定した売り上げを維持できるようになった。

【数値指標】

事業所名	Kawasemi	杜の Shokudo
事業種別	就労継続支援 A 型	就労継続支援 B 型
利用者定員数	10 名	10 名
利用者延べ数	1653 名	2746 名
開所日数	295 日	299 日
一日平均利用者数	5.6 人	9.1 人
当期予算	37,611,000 円	4,612,000 円
総収入	42,465,843 円	46,229,703 円
生産活動収入	27,833,894 円	21,059,633 円
給料・工賃総支給額	13,132,181 円	5,847,198 円
給料・工賃月額平均	160,800 円	35,437 円
職員配置基準	7.5 : 1	7.5 : 1
見学	5 名	9 名
実習	なし	4 人

## Ⅱ-3 デイグループ

### (1) 庵（生活介護） 事業報告

#### 【総括】

2022年度は、まずサービス管理責任者の変更があり、新体制でのスタートとなった。同時に新型コロナウイルス感染症も前年までに比べると落ち着き始めた為、外食や夏祭り等の行事を行うことが出来た。新体制にも慣れ始め、行事の企画も増やしていこうとしていた矢先、11月に再度サービス管理責任者の入れ替わりがあった。また、びんの郷の完成予定が2月末から3月下旬に延期。移転の準備や利用者を交えての下見が不十分となった。今年度は、部署全体が浮足立つ落ち着きのない1年だった。

利用者に関しては登録人数24名からのスタートとなった。前年度から自宅療養をしていた利用者が通所復帰の目途が立たず利用終了となった。医療的ケアだけではなく治療行為としての医行為が必要になってしまった為であり、スタッフ全体に悔しい思いがあった。新規利用に関しては6月に1名、3月に1名の計2名が増え、最終的な登録人数は25名となった。

日中活動プログラムについては、大きく変化はなかったが、季節の行事として部署内で夏祭りを企画して実施するなど、今までとは違った活動を模索した。お菓子などの景品が魅力的であったためか、利用者には好評だった。普段の活動も大切にしながら季節毎に行事を取り入れるようにしていきたい。日々の最低限の事として「利用者が毎日楽しかった」と思って帰ってもらえるようにという部分だけは変わらずに行えたと思う。来年度もこの根幹の部分は変えずに利用者と接していくことはスタッフ間で徹底し取り組んでいく。

#### 【事業課題】

##### ・医療的ケア関連

医療的ケアの必要な既存利用者の利用日数に関しては、スタッフ体制に限りがあり増やす事が出来なかった。

##### ・スタッフ関連

1年の間でサービス管理責任者の変更が重なり、スタッフの意識がバラバラになってしまっていた。チームとしての支援が弱くなったことが反省点であった。

##### ・利用者関連

利用者に対して個別の活動を提供できず、集団活動に参加していない利用者が埋もれてしまっていた。

#### 【事業成果】

##### ・外出関連

人員の不足や新型コロナウイルス感染症の影響により、近年実施出来ていなかった少人数のグループの外食行事を2度企画し実施することが出来た。外食行事を純粹に楽しみされている方も多く、喜んでいる方も多かった。普段外食機会が少ない方もおられ、希望も多いため今後も継続的に実施していく。



【数値指標】

事業種別	生活介護	
	2021年度	2022年度
利用定員（登録者数※年度末）	20（24）名	20（25）名
開所日数	260日	260日
利用者延べ数	3409	3545
1日平均利用者数	13.1名	13.6名
平均障害支援区分	5.3	5.4
医療的ケアを必要とされる方	4名	3名
総収入	58,671,061円	61,752,315円
総支出	55,993,960円	60,611,372円
収支差額	2,677,101円	1,140,943円
職員配置	管理者兼サービス管理責任者1名 生活支援員(常勤)7名 生活支援員(非常勤)3名 看護師(非常勤)1名 運転手1名	管理者兼サービス管理責任者1名 生活支援員(常勤)8名 生活支援員(非常勤)3名 看護師(非常勤)2名 運転手1名
利用者：スタッフ（人員配置加算）	1.7：1	1.7：1

## (2) げんげん（生活介護） 事業報告

### 【総括】

7月から8月にかけてと、11月から12月にかけて、新型コロナウイルス感染症の集団感染が2回あった。前者については規模も大きく、利用者への利用控えの通知も余儀なくされた。後者については規模も小さく、利用控えの通知は出さずに実施してきた。基本的な感染対策は行っていたが、げんげんの利用者の障害特性から、感染拡大を防ぐことは困難であった。

利用者の登録数は21名で昨年度と変わらなかったが、昨年度の年間のべ利用実績4,711名から、今年度は4,467名に減少した。新型コロナウイルス感染症の影響に加えて、利用者1名が施設入所を前提に、3月の1か月間、短期入所を利用してことが要因であった。それに伴い収入が当初予算から約450万円のマイナス。収支差額が当初予算から約200万円のマイナスとなった。

利用者自体の変更は無く、平均年齢も40歳を超えてきた。親の高齢化に伴い、自宅での生活が難しくなっている利用者は年々多くなってきた。その中で昨年度に引き続き、今年度もげんげん利用者1名が自宅での生活から、下宿屋へと生活拠点を移行した。両親が本人と離れての生活に難色を示す中、根気よく話してきた成果があったと感じている。他、施設入所を前提として短期入所を利用していた利用者が、施設入所が決定して、今年度末をもってげんげんの利用終了となった。家族には、地域で生活しながら日中はげんげんを利用する案を提示してきたが、結局入所施設を選択した。入所施設自体否定しないが、地域での生活が十分可能と考えるケースであったので残念に感じている。

日中活動に関しては、マンネリ化してきている感もあるが、利用者自身楽しみにしてくれている部分も少なくない。その中で利用者がもっと楽しめるように、今まで参加できなかった利用者へのアプローチを検討した。集団での活動が苦手な利用者へ個別対応でどのように関わっていくか等、少しずつではあるが、スタッフが意識して動けるように変化した。

どこまで利用者自身に満足してもらえたかは分からないが、体調や気分の波などの原因で休む事はあったが、基本的には嫌がらずにげんげんを利用してもらえたことは幸いであった。

### 【事業課題】

- ・当初、事行計画に校区の小学校の見守り隊の参加を盛り込んでいたが、実施できていなかった。退職等によるスタッフの入れ替え、休職等によるスタッフの人数の問題もあったが、工夫次第で実施できる状況であった。
- ・利用者のケガ等のリスクを考えすぎて、利用者の行動を狭めてしまった。バランスのとれた対応が必要であった。

### 【事業成果】

- ・ダンスプログラムの講師が休んでいる期間、動画を見本としてスタッフなりに盛り上げていこうとするなど、日中活動でスタッフも一緒に楽しむという意識が以前より出てきた。
- ・利用者のケガに関しては、小さな怪我は無くならないが、通院を伴う怪我は皆無であった。スタッフが利用者の障害特性を理解し、げんげん全体の動きを考えたうえで個々のスタッフが、なにをすべきか

を意識して動くようになった。

・外出行事は全体でなく、3～4グループに分けて実施した。利用者に限らず、スタッフもゆったりとしたペースで行動できた。

【数値指標】

事業種別	生活介護	
	2021年度	2022年度
利用定員	20名	20名
登録者数	21名	21名
開所日数	259日	260日
利用実績	4,711名	4,467名
1日平均利用者数	18.2名	17.2名
平均障害支援区分	5.57	5.61
平均年齢	39.1歳	40.1歳
当初予算（収入）	82,380,000円	81,430,000円
収入	81,400,000円	76,916,222円
当初予算（収支差額）	9,323,000円	16,140,000円
収支差額	18,512,000円	14,157,347円
職員配置(年度終わり時点)	管理者兼サービス管理責任者1名 生活支援員（常勤）6名 生活支援員（非常勤）2名	管理者兼サービス管理責任者1名 生活支援員(常勤)7名 生活支援員(非常勤)4名

### (3) 創奏（生活介護） 事業報告

#### 【総括】

今年度から、サービス管理責任者が変更した。最初に課題に感じた事が、スタッフ全員バラバラな動き…繋がらない点の動きであると感じた。最初にした事が、点の動きであったスタッフの動きを線に繋げる事を意識した。加えて各々が自分自身どうありたいか、どうしたいかという事、チームとして共通認識を持つことに重点を置いた。報告、連絡、相談は勿論の事、1階のフロアはAスタッフ、2階のフロアはBスタッフ、だやし屋はCスタッフと言う様に責任の所在を明確化した。各々の持ち場に責任を持って貰う様にした。また家族への連絡調整も大きくはサビ管が行うが、スタッフにも積極的にして貰った。コロナ禍の際にはそれが高じてか、サビ管が新型コロナウイルスにかかり不在の際も連絡報告取り合いつつ、現場スタッフで乗り切れることもできた。スタッフには加えて自分の持ち場だけ見れば良いのではないという事も同時に全員で意識した。俯瞰してみることを意識して貰った。口頭は勿論メールや引継ぎ用のノート等も用い報告漏れが無いように努力した。1日の終わりに泊り等で人が少なくても時間が短くても、例え5分でも必ず時間を取り話した。いない時も必ず次の日までに申し送る努力をした。

口腔ケアについては、スタッフ・利用者ともに取り組みに対する理解が低かったので、全員分の歯ブラシシヨップを用意して、毎日のチェック表、歯磨き、仕上げ磨きの時間もプログラムの中に組み込んだ。

創作活動については、個別に何かを作るだけでなく、集団で一つのを…飾り用の大きい物を作ることを目標として設定し、南鳴野商店街のアーケードに飾るタペストリー、トイレトペーパーの芯で大きなツリーを作製した。商店街に飾りたいので楽しく賑やかに、と様々なものを作った。そのほか、畑で切り取った青竹を貰い、青竹踏みを作り販売した。

だやしやさんの販売に関して、活動範囲を実験的に拡大した。さらに店頭だけでなく大口の注文もありリアンの杜とコラボレーションさせて貰い、販売するという事も行えた。今年度は、スタッフの入れ替わりもありながらもチーム作りの地固めができた。

収支面に関しては、利用者の増減あるものの障害福祉サービス等事業収入に大きく変動はなかった。今年度は人の入れ替わりや退職等もあり人件費が上がった事や、前年度の特定求職者雇用開発助成金等がなくなったのもあり、収支差額に関しては前年度より590万円程マイナスだった。当初の予算建てよりも320万円ほど少なかったが、補正予算とほぼほぼ同じ額のプラス収支で終える事が出来た。

#### 【事業課題】

- ・家族へのアプローチが、あまり出来ていなかった所からのスタートだった。これまでの関係性をさらに深めることが困難だった。
- ・書類関係の整備が乱雑で整っていなかった。コツコツ整理と整備を進めたが、他の課題が多すぎそちらを優先した為にしきれなかった。

#### 【事業成果】

- ・スタッフに少しずつ責任感が芽生え、全ての事に対し「どうせサビ管がするわ。」という事無く皆の問題としてとらえる事が出来た。想いの部分を伝える事ができた。

- ・役割分担を明確にする事により、個々のスタッフが周りを見て行動するようになった。
- ・日中活動に関しては3か所の場所があることを活かし、各々に合わせてのスケジュールを立てる事が出来た。それもあって、だがしや周辺での利用者の活動が増え、だがしや・南鳴野商店街を賑やかにすることができた。

【数値指標】

※数値に関して前年度の数字を載せ比較出来る様にした。

事業種別	生活介護	
	2021年度	2022年度
利用定員	20名	20名
開所日数	257日	260日
利用者延べ数	4,271	4,246
1日平均利用者数	17名	16名
稼働率	83%	82%
平均障害支援区分	4.58	4.6
総収入	46,028,750円	44,393,308円
総支出	25,351,488円	29,591,667円
収支差額	20,834,222円	14,920,361円
障害福祉サービス等事業収入	43,759,922円	43,049,477円
平均工賃(作業活動手当なし)	304円	404円
平均工賃(作業活動手当あり)	2,147円	2,851円
職員配置(年度終わり時点)	管理者兼サービス管理責任者1名 生活支援員(常勤)2名 生活支援員(非常勤)5名	管理者兼サービス管理責任者1名 生活支援員(常勤)2名 生活支援員(非常勤)5名
だがしや収入(純利益)	129,135円 (作業収入の14%)	145,378円 (作業収入の16%)
その他作業収入	824,129円	766,338円

## (4) いま福の家

### (共生型生活介護・地域密着型通所介護・介護予防型通所サービス) 事業報告

#### 【総括】

利用人数については新規の利用者を4名受け入れ、徐々に定員数を増やした。しかし、毎日利用していた利用者2名が他事業所利用・入院となり、4月時点で8.6名だった1日当たりの平均利用者数が、年度末には8.4名と大きく変化はなかった。利用時に限らず、状態の観察や健康管理・把握が大切だと感じさせられた。

地域密着型という観点から、地域の方の利用があれば良かったが今年度は希望がなかった。また、新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、地域の方との運営推進会議開催は1回にとどまった。

#### 【事業課題】

「今日もいま福の家に来てよかった。楽しかった。」と利用者に思ってもらえることが目標だが、利用者の対応に追われたりスタッフの技術不足もあり、来所しても安心してくつろげる場所にはなっていなかった。

#### 【事業成果】

日中活動では、外部講師によるプログラムとして歌、アロママッサージ、陶芸教室を実施した。特に、歌のプログラムでは、懐メロが中心で利用者の世代が近いため歌いたい歌が絞りがやすく好評であった。関心のなかった利用者も自ら鈴を持って参加している様子や、毎朝のストレッチ運動でもきっちり伸ばせてなくても徐々に出来ることが増えてくる等、継続していく事の大切さを感じた。

【数値指標】

事業種別	地域密着型通所介護	生活介護
利用定員	10名（通所介護・生活介護合わせて）	
登録者数(2023年3月1日時点) 計17名	11名（4名は生活介護にも登録）	10名（4名は介護保険でも登録）
登録者数(2022年3月1日時点) 計15名	11名（4名は生活介護にも登録）	8名（4名は介護保険でも登録）
特記	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援6名、要介護5名</li> <li>・新規利用1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用3名</li> <li>・利用終了1名（他事業所に移動）</li> </ul>
利用実績	1,540人	1,478人
利用実績（昨年度）	1,563人	1,275人
1日平均	3.9人	4.7人
1日平均（昨年度）	5.0人	4.1人
開所日数	308日（コロナ警戒と台風により例年より2日減）	
開所日数（昨年度）	310日	
事業収入（当初予算）	¥14,051,000	¥11,870,000
合計	¥27,361,000	
事業収入（昨年度）	¥13,173,000	¥10,239,000
合計	¥23,412,000	
職員配置	管理者（兼務）…1名 生活相談員（兼務）…2名 支援員…4名（常勤3名、非常勤1名） 看護師（兼務）…（非常勤1名）	

## (5) 伝（児童発達支援・放課後等デイサービス） 事業報告

### 【総括】

2022 年度も新型コロナウイルスの影響が続き、前半あたりはその対策・対応に追われることもあった。特に 5 月には利用児童の感染が続き、2 日間だけ感染拡大防止のために閉所することはあったものの、クラスターレベルの感染拡大に至らなかったことは一安心したところだった。これはスタッフだけでなく、児童自身も感染予防のため日々の消毒作業などを継続して一緒に取り組んできたことが効果を発揮した結果であった。

現場の療育としては、集団療育だけでなく、今年度も引き続き個別療育にも重きを置いて取り組んできた。1 例として個別療育に取り組み続けた結果、集団の中で過ごしやすくなった児童がおり成果が見られた。

児童発達支援の収入は厳しい状況が続いたが、新規利用者の利用が定着し前年度と比べると収入増となった。現場では、放課後等デイサービスの児童との関わりで集団療育の場面が出来た。

放課後等デイサービスに関しては、新規利用で 1 名増、年度途中での利用終了もなかったものの利用実績が落ち込んだ。要因としては、児童の成長に伴い放課後等デイサービスの利用だけではなく、スポーツクラブなどの習い事を始め、伝の利用日数が減少した。その状況に対して改善出来なかったことが、利用実績に大きく響いてしまった。

その他として生き残るためには改めて日々の療育を見直し選ばれる事業所であることが必要である。スタッフのスキルアップはもちろんのこと様々な活動に積極的に取り組んでいき、求められる療育を行うことは当然ではあるが伝として「遊びを通した療育」「感情を育てる療育」を続けていきたい。

### 【事業課題】

- ・スタッフの療育に対するスキルアップ。人材（資格保有者）の確保

スタッフは日々業務に追われながらも児童らとは真摯に向き合い関わっている。しかし療育の視点を持った対応についてはまだまだ不十分である。スタッフ一人ひとりがそれを理解し、チーム全体でスキルアップに取り組んでいく。

人材の確保については令和 5 年 3 月 31 日で「障がい福祉サービス 2 年経験者」が廃止された。人員配置に算定出来ていたスタッフが「その他従業者」となり人員配置が厳しくなった。まだ何とか人員配置としての基準はクリアしているものの児童指導員や保育士等の資格保有者の確保は今後の課題である。

- ・1 人ひとりに合った課題や日中の過ごし方の設定。
- ・安定した運営。利用者の確保。

2023 年度での卒業を控えている児童が 2 名。1 名はほぼ毎日利用している児童であり収入面を考えると 2024 年度には大きく響いてくる。新規利用者の確保だけでなく、現在利用している児童の利用日を増やすことも利用の必要性を考えた上で保護者と相談して考えていきたい。

・2024 年度の法改正で指定基準が見直される。それによって、増え続ける事業所に歯止めがかかるだけでなく、現在ある事業所にも人員基準が厳しくなり適切な支援を求められることとなる。実際、事業を



継続することが難しく廃止する事業者が出てきている。すでに伝を利用中の児童の中にも併用して利用していた事業所が廃止となり、新た受け皿についての相談があった。今後も同様の相談が増えることは明白であり、可能な限り対応したい。

## 【事業成果】

### ・2022年度の新たな取り組み。「感覚」をテーマにした活動

ダンス以外にも外で遊ぶなどの粗大運動を意識した活動や、個別課題や創作活動での微細運動を意識した活動など感覚統合の視点から取り組んだ。他にはアロマテラピーを取り入れ、アロマの香りを感じながら時にはマッサージをしたりしながらリラックスできる環境で過ごす時間を作った。ただ、これについては個別での取り組みという面が強く、周囲を巻き込んで過ごす時間にすることが上手く出来なかったことはスタッフの反省すべきところであり次の課題となった。

### ・個別療育（個別課題）

平日の午前中などプログラムとして行う時間だけでなく、夕方の時間帯の少しの時間でも個別課題を行ってきた。最初は課題に取り組むことを嫌がるが多かった児童も繰り返し行うことで意識づけも出来てきた。しかし児童も一人ひとりに合った課題の分析が不十分であり継続して取り組みが出来ていなかったこともあった。また対応するスタッフが固定的に行う事があった。これは児童との関係性や限定して対応することで課題にスムーズに取り組むことが出来ていたという点では良かった。しかしその反面、別のスタッフになると取り組みづらくなってしまったり、スタッフ同士の共有が出来ず、統一した課題設定が出来なかったため、児童らを混乱させてしまうことがあった。

### ・集団療育

特筆すべきことは、今年度に入ってから児童らの希望とその必要性から公園に行き遊ぶ機会が増えた。その中で体を動かすこと、遊びや時間のルールを一緒に考え、決めて行動することなどが継続して取り組むことが出来たことが成果であった。児童同士でケンカすることも多々あったが、自分の気持ちを伝える事や相手の気持ちを聞く事、どうすればよかったかを、スタッフが間に入って一つ一つ解決に向けて考える練習をした。その結果、スタッフが介入することなく解決できることが徐々に増えてきた。

また、公園に遊びに来ている地域の児童らとの交流が、自然発生した。一緒に楽しく遊んでいることが多い。その結果、地域の児童が伝に遊びに来てくれたことがあった。このように、伝を利用する児童が、地域の子ども社会のなかで遊びを通して過ごせたことは、何よりも大切な経験であり児童らの成長に繋がるのだと実感できた。

【数値指標】

事業種別	児童発達支援	放課後等デイサービス
利用定員	10名（児童発達支援・放課後等デイサービス合わせて）	
登録者数 （2023年3月1日時点）	3名	22名
特記	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア（経鼻経管栄養、鼻腔内・口腔内の喀痰吸引）が必要な児童1名</li> <li>・見学者1名</li> <li>・新規利用1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学者3名</li> <li>・新規利用1名</li> <li>・利用終了2名（3月で卒業）</li> </ul>
利用実績	177人	2,271人
利用実績（昨年度）	138人	2,367人
1日平均	0.7人	9.3人
1日平均（昨年度）	0.6人	9.6人
開所日数	245日（※2日間閉所のため）	
事業収入（当初予算）	¥1,398,000	¥25,785,000
合計		¥27,183,000
事業収入	¥2,821,902	¥24,999,909
合計		¥27,821,811
事業収入（昨年度）	¥1,868,548	¥27,030,852
合計		¥28,899,400
職員配置	管理者兼児童発達支援管理責任者…1名 児童指導員…1名（常勤1名） 保育士…3名（常勤2名、非常勤1名） 障がい福祉サービス2年経験者…2名（常勤1名、非常勤1名） 看護師（兼務）…（非常勤1名）	

## Ⅱ-4 地域生活支援グループ

### (1) ホームヘルプセンターとことこっと

#### (居宅介護・重度訪問介護・同行援護/移動支援/訪問介護) 事業報告

##### 【総括】

2022年度の7月～9月の間、コロナウィルス感染症による感染者が増加し、対応に追われた。人間的な問題もあり感染者対応と通常居宅対応者を完全に分ける事が難しく（医療的ケアは除く）感染対策は行ってきたが万全でなく常勤ヘルパーの7割が順番に感染していく状況となり、ヘルパーチームが機能できなくなり、壊滅状況となった。その為、この間は居宅介護を断らざるを得ず、大幅な減収となった。

計画に掲げてきた「ヘルパーの質」については、まだまだ課題が多い1年であった。元来、一人一人の生活経験やパーソナリティによって成り立ってきた部分が大きかったが、それだけでは「質」の維持は立ち行かない状況であった。

とことこっとは、他法人が運営するヘルパー派遣事業所とは異なり、常勤ヘルパーが主となってヘルパー業務を行っている。常勤ヘルパーが平日に2～4件の居宅に入り、土日は下宿屋の一日対応や長時間のヘルパー業務がある。そこに加えて下宿屋の担当や臨時のヘルパー対応、事務書類等、人によっては医療的ケアや行動障害等の対応等もあり、視野の広さと臨機応変さをより求められる現状がある。「質」を問うことは当然ではあるが、現状の余裕のなさが、今のヘルパーの「質」に影響している一つの要因であり、業務等の見直しや一人一人のキャパシティに応じた業務の振り分けが必要である。ヘルパーに応じた業務整理・振り分けができていなかった。

新規の利用者については、1か月に内外で平均7件程度の問い合わせがあった。しかし、慢性的な人員不足という問題もあり、今年度は内部1件、外部2件で留まった。

##### 【事業課題】

①常勤ヘルパーの業務見直し及び研修などによる育成を行う。

②登録ヘルパーの確保

③現行サービスの見直し

全体のヘルパー状況を確認し、調整する事で収入の増加と新たなニーズに答える。

④事務の効率化

携帯やタブレットを使用したヘルパー記録等の管理を行い、事務負担を軽減させる。

##### 【事業成果】

①医療的ケアが必要な利用者受け入れの為、資格取得者を増やすことができ、重度訪問介護の収入を増加する事ができた。

②下宿屋を中心としたヘルパー業務の補助として外国人アルバイトを入れ、日々の不十分な部分の介入や次年度を見越したヘルパー育成を進める事ができた。

【数値指標】

	2021年度実績	2022年度予算	収 入	支 出	収支差額
居宅介護	77,724,111	68,353,000	75,381,222		
重度訪問 介護	107,091,364	115,046,000	120,840,710		
同行援護	8,722,937	8,212,000	9,193,488		
移動支援	14,613,322	13,464,000	13,870,950		
障害 計	208,151,734	205,075,000	<b>219,286,370</b>	197,141,264	24,354,624
訪問介護	15,817,166	18,138,000	18,236,410	5,731,455	12,504,955
全体合計	223,968,900	223,213,000	<b>237,522,780</b>	202,872,719	34,650,061

(円)

## (2) 添（短期入所） 事業報告

### 【総括】

2022年度もコロナに振り回された1年であった。新型コロナウイルス感染拡大により1日の受け入れ人数を縮小したものの、閉所したのは床工事での2日間のみであった。

緊急受け入れは、2021年度とほぼ変わらず18件と多かった。緊急受け入れの理由は、家族の入院や自宅の改築工事、虐待の疑い、他事業所の短期入所がコロナで閉所し、開所の目途がたっていないなど様々であった。

2021年度と2022年度の其々の数値を比べても大差はないが、収支差額では大きな差が出ている。これは区分の高い利用者の受け入れが多かったことや緊急受け入れの受け入れ日数が多かったことが理由にあげられる。緊急受け入れの延べ日数は、2021年度は64日に対して2022年度は83日になる。緊急受け入れは現場スタッフの負担が大きいが外国人スタッフを複数名配置することでカバーすることで負担を大きく減らすことができた。また、外国人スタッフの個々の力がついてきたことも大きかった。

### 【事業課題】

利用希望者が多く、希望に添えない状況が続いた。短期入所の利用目的は、自立に向けての練習、レスパイト、緊急案件など多種多様である。それぞれの目的があるが、定員5名の中で新規の希望者や利用日数増、緊急などの課題に向き合い利用してもらうことを考えなければならない。しかし、実態としては利用者の組み合わせに四苦八苦していることもあり、利用の制限や新規の受け入れを断わざるを得ない状況があった。再度、利用者それぞれの短期入所の利用目的を見直し、円滑に利用できるように考える必要があった。

日本語含めて、外国人アルバイトの個々の力がかなりついてきており、大きな戦力になっている。しかしながら、お手伝い的な存在である部分が多い。本人たちもそういった気持ちがあるのかもしれないが、利用者対応と精神面での関わりも含め、重要な戦力としての育成をスタッフに求めた。

### 【事業成果】

コロナ過の中、2021年度・2022年度は利用者数が例年より少ないが、閉所日もほとんどなく開所できたことは大きい。とりわけ緊急の受け入れは出来る限り受け入れできたことは短期入所としての役割は果たせたと考えられる。

行事については、スイカ割り・花火・冬至ゆず風呂・クリスマス・花見外出など季節に応じて開催し、利用者も楽しむことができた。

単に宿泊するのではなく、行事を楽しむことであったり、調理や買い物・洗濯・掃除等の練習が定着し、それぞれの目標に合わせて実施できた。平日は取り組みの時間をとることはできなかったが、それぞれに自分の役割（洗濯、ベッドメイク、食器洗い、盛り付けなど）があり、時間があればティータイムやトランプなど様々な過ごし方を提案できた。

【数値指標】

	2021年度	2022年度
定員	5名	5名
開所日数	364日	363日
利用延べ人数	1,404名	1,481名
1日平均利用人数	3.5名	3.9名
緊急受け入れ件数	20件	18件
人員配置	合計：3.5名 管理者：1名 生活支援員：1.5名 宿直者：1名	合計：3.5名 管理者：1名 生活支援員：1.5名 宿直者：1名
予算	24,560,000円	26,241,000円
総収入	23,586,744円	28,382,855円
障害福祉サービス等事業収入	22,148,694円	27,904,365円
総支出	18,086,401円	18,646,137円
収支差額	5,500,343円	9,736,718円

## II -5 大阪市地域子育て支援拠点事業

### 杜のこうさてん事業報告 【数値指標】

	実施 日数	来所者数	新規 利用者数	相談件数		講習等	
				延べ 総数	実 総数	回数	参加者
4月	21日	大人 75人	大人 11人	13	10	14	大人 35人
		子ども 81人	子ども 11人				子ども 36人
5月	18日	大人 69人	大人 6人	7	4	13	大人 35人
		子ども 69人	子ども 6人				子ども 36人
6月	22日	大人 84人	大人 13人	16	11	16	大人 54人
		子ども 85人	子ども 13人				子ども 56人
7月	20日	大人 67人	大人 2人	4	2	14	大人 30人
		子ども 70人	子ども 2人				子ども 30人
8月	16日	大人 32人	大人 3人	2	2	9	大人 15人
		子ども 42人	子ども 3人				子ども 19人
9月	20日	大人 53人	大人 6人	8	6	16	大人 42人
		子ども 61人	子ども 6人				子ども 44人
10月	19日	大人 70人	大人 14人	9	9	14	大人 43人
		子ども 68人	子ども 14人				子ども 41人
11月	20日	大人 71人	大人 15人	5	6	18	大人 43人
		子ども 74人	子ども 15人				子ども 43人
12月	20日	大人 118人	大人 11人	11	10	15	大人 47人
		子ども 126人	子ども 13人				子ども 48人
1月	19日	大人 123人	大人 12人	7	6	14	大人 54人
		子ども 140人	子ども 13人				子ども 59人
2月	18日	大人 164人	大人 9人	13	7	14	大人 65人
		子ども 182人	子ども 9人				子ども 70人
3月	22日	大人 156人	大人 9人	13	13	15	大人 53人
		子ども 133人	子ども 9人				子ども 59人
合計	235日	大人 1,082人	大人 111人	108	86	172	大人 516人
		子ども 1,131人	子ども 114人				子ども 541人

### Ⅲ公益事業

#### 1.地域生活支援センターあ・うん（居宅介護支援） 事業報告

##### 【総括】

今年度は、新規の利用相談が3件であったが、うち1件は利用契約直後に入院、亡くなったので、新規利用開始としては2件であった。利用終了者は3件で、前述の死亡に伴う1件と他法人の高齢者施設入居に伴う利用終了が2件であった。

介護保険と言う高齢者の制度上、仕方のない部分もあるが、昨年から引き続き他法人の高齢者施設への入居が理由で利用終了するケースがあった。外部資源が一概に悪いとは思わないが、そうそうの杜で対応しきれないもどかしさを感じる事がここ数年続いている。

収支については相変わらず大きな赤字である。ケアプラン作成に係る収入だけでは、ケアマネージャー1.5人（管理者1名、ヘルパー兼務1名）の人件費を賄える収入には至らない。しかし、法人内の高齢利用者が少しずつではあるが増えている状況を考えると、居宅介護支援事業所の持つ意味は大きく、今後のニーズは高い。

##### 【事業課題】

高齢期の非該当利用者のスクリーニングを計画にあげていたが、様々なケースに応じた個別の対応が重要であった。利用者の数年先を見通した様々な想定を、スクリーニングに反映したうえで、来るべき時に備え柔軟に対応したい。

##### 【事業成果】

22年度はたまたま65歳に達する利用者はおらず、ライフステージ移行に際してのソフトランディングという事業活動は実施できなかった。新規利用者については、地域包括からの紹介1名・法人利用者の父親1名・法人利用者の妹の夫1名であり、3名中2名が関係者であった。

##### 【数値指標】

	2021 年度	2022 年度
内容	居宅介護支援事業	居宅介護支援事業
登録利用者数	26 人 (3 月末)	26 人 (3 月末)
事業収入	2,706,576 円	2,835,080 円
支出	15,308,698 円	15,588,730 円
収支差額	△12,602,122 円	△12,753,650 円
職員数（常勤換算）	1.5 人	1.5 人



## 2.大阪市障がい者就業・生活支援センター 事業報告

### 【総括】

- ①就職のための支援 求職活動（ハローワーク同行・履歴書確認・必要機関の紹介・他機関との連携・福祉サービスの見学 同行など）を支援した。
- ②働き続けるための支援 会社への訪問・本人や職場と面談・課題の整理・環境調整・生活相談など、働くための仕事と生活のアドバイスや余暇活動のアドバイスなど実施した。③関係機関との連携 必要な支援機関（ハローワーク・職場・病院・福祉サービスなど）と情報共有した。

### 【事業課題】

ワーカー4名に対し、登録者数607名（内、在職者365名）で無理が生じた。4月に登録者を精査し整理したが、新規相談も100人以上の申込みがあり、元の木阿弥状態となった。状況や優先順位を考えながら、スタッフを配置して定着訪問や同行訪問に当たった。作業面での困難ケースは大阪障害者職業センターのジョブコーチ支援などを有効活用し、生活面に関しては地域の基幹相談支援センターや相談支援事業所と連携を取りながら進めた。

新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問や面談が難しくなってきた企業等もあるので、出来る限りリモート対応に切り替えて行った。

就職者の交流会（SSE会）は、今年度も当初は感染予防のため中止せざるを得なかったが、1月から再開できた。しかし、参加人数の増加もあり、活動内容を検討する必要がある。

### 【事業成果】

- ①精神・発達障害者に対する支援の充実を強化
- ・発達障害の特性の整理や精神症状のフォローに取り組んだ。
  - ・ワーカーの研修に積極的に参加した。
- ②MAJT（大阪市北部地域就労支援事業所連絡会）との関係強化
- ・「MAJT」の加盟団体が、57事業所と4区基幹相談支援センターの61団体となった。
  - ・就ポツが事務局として活動し、各部署の連携を図りながら相互に交流を深めた。
  - ・定例会や勉強会を行い11月には就労フェスタ（事業所説明会）を開催した。
- ③各区自立支援協議会への参加協力
- ・4区の自立支援協議会に参加し、関係強化に努めた。
  - ・各区の現状に応じた活動に積極的に関与し、福祉資源の均衡を図った。

【数値指標】

登録者の内訳 精神障害（発達障害含む）がある人の相談が増加

	身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	発達障害	高次脳 機能障害	その他 (難病)	合計
在職中	23 (4)	190 (23)	111	38	3	0	365
求職中	16 (0)	57 (2)	101	37	4	5	220
休止中	2 (0)	15 (0)	2	3	0	0	22
合計	<b>41 (4)</b>	<b>262 (25)</b>	<b>214</b>	<b>78</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>607</b>
割合	6.7%	43.2%	35.3%	12.9%	1.1%	0.8%	—

新規相談の推移 (2020年～2022年度/昨年比14名増)

障害種別	2020年度	2021年度	2022年度	割合	昨対比
身体障害者	6	9	8	6.8%	89%
知的障害者	44	37	36	30.5%	97%
精神障害者	42	38	51	43.2%	134%
発達障害者	9	19	21	17.8%	111%
高次脳機能障害者	4	0	0	0	0
難病	1	1	2	1.7%	200%
合計	<b>106</b>	<b>104</b>	<b>118</b>	—	<b>113%</b>

就職者の推移

	身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	発達障害	高次脳 機能障害	その他 (難病)	合計
2021年度	31 (4)	188 (22)	97	36	4	0	356
2022年度	23 (4)	190 (23)	111	38	3	0	365
昨対比	<b>74%</b>	<b>101%</b>	<b>114%</b>	<b>106%</b>	<b>75%</b>	—	<b>103%</b>

就職先内訳

就職先		身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	発達障害	高次脳 機能障害	合計
2021年度	一般企業	1 (0)	30 (0)	16	4	0	51
	A型事業所	5 (0)	12 (5)	16	1	1	35
2022年度	一般企業	<b>1 (0)</b>	<b>32 (0)</b>	<b>25</b>	<b>8</b>	<b>0</b>	<b>66</b>
	A型事業所	<b>3 (1)</b>	<b>7 (1)</b>	<b>17</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>29</b>
2022年度 割合	一般企業	2%	48%	38%	12%	—	—
	A型事業所	10%	24%	59%	7%	—	—

### 3.地域生活サポート事業 事業報告

#### 【総括】

城東区内に100名を超す利用者が地域生活を営んでいる。内61名（2023年3月31日時点）が下宿屋契約を結んでおり、地域生活者の数も年々増え続けている。

今年度、初めて下宿屋の説明及び見学会を本人・家族向けに7月19日に蒲生エリア（19名）、8月28日に鳴野エリア（7名）、11月13日に鳴野エリア（8名）の計3回実施し、計34名の参加があった。どの家族も将来への不安を持っており、慣れたそうそうの杜で地域生活が出来ればと思っている家族が多かった。家族の切実な想いを改めて知る機会となり、また手厳しい意見も率直にぶつけて頂いた。本人や家族の想いにどのようなかたちであれ真摯に伝えていくべきだと考えさせられた見学会となった。

下宿屋の多くは蒲生エリアに集中していたが、近年鳴野エリアの下宿屋や地域生活者が増え、エリアが広範囲になることで支援が手薄になることも生じてきた。資源を集約することで支援が行き届くようにと考え、下宿屋「想」（蒲生から鳴野へ）、「綾」（鳴野西から鳴野東へ）の引っ越しを行い、鳴野エリアに集中させた。鳴野エリア担当スタッフで不定期であるがケース会議を行い、情報共有を行ったが十分と言える取り組みは出来なかった。

2021年に建設した座座/座の中にある下宿屋「座-kura-」も定員6名が埋まり、軌道に乗り始めた。夜勤体制が揃わず本来の形ではないが重症心身障害者（とりわけ医療的ケアのある利用者）の地域生活も形になりつつある。定期的に月2回、看護師、相談支援専門員、各事業所の代表が集まり、ケース会議を開催し、情報共有や方向性の確認を行い、円滑に地域生活が営めるように図った。

#### 【事業課題】

泊りを配置している下宿屋は通常1日8名で、多い曜日は最大10名になる。これまで利用者や家族の状況にあわせて下宿屋の数を増やしてきた。また、泊り専門のスタッフの雇用等も積極的に行ってきたが、スタッフの負担等を考えると現在の仕組みの限界がきていると感じる。地域生活の希望者は今後も増え続けることが予想される中で、法人としてどのように対応していくのか考えていく必要がある。また、利用者の高齢化に伴う住環境の問題なども今後の重要課題となることが予想される。

女性の下宿屋で泊りを配置しているのは1か所のみである。今後の展開を考えると泊りのある女性の下宿屋の軒数を増やしていくことも考えていかなければならない。

#### 【事業成果】

緊急時の対応については、地域定着支援で補えない部分を地域サポート事業として対応することが出来た。また、年度末に一人暮らしをする利用者の受け入れを行ったが、不動産会社との関係を構築していることで住居の確保などスムーズに行えた。

利用者の金銭管理では、本部・公認会計士事務所のダブルチェックを通して速やかに処理できた。

【数値指標】

	2021年度	2022年度
予算	50,000,000 円	55,700,000 円
事業収入	51,354,363 円	55,299,413 円
事業支出	56,906,098 円	55,386,108 円
収支差額	-5,551,735 円	-86,695 円
契約人数	65 名	71 名

## IV各種活動

### 1.権利擁護・虐待防止・第三者委員会 活動報告

#### 【総括】

今年度は、昨年度に引き続き、第三者委員の徳田行政書士及び徳田行政書士事務所スタッフに事業所訪問、利用者・スタッフへの聞き取り調査を依頼した。昨年度実施できなかった事業所を中心に実施した。

また、昨年度発生した虐待事案を大阪市に報告した後、関係者への聞き取り、報告書の作成・修正の作業を実施した。なお、虐待防止研修として、6月に徳田行政書士に「虐待事案が発生する要因・メカニズム」という演題で、全スタッフを対象に講演会を実施した。

#### 【事業成果】

##### 第三者委員聞き取り結果

事業所	聞き取り対象者	特記事項（抜粋）
とことこっと	スタッフ6名	研修制度、人事考課、給与体系、就業規則について検討中とのこと。現場の要望が取り入れられるように配慮いただきたい。 緊急対応含め時間外対応、宿直について社労士と検討が必要。
庵	利用者10名	レクリエーションやラジオ体操に参加。楽しそうに過ごしていた。 寝ようとしているところに声をかけたため、面倒くさそうに対応された。経緯は不明だが、途中で一人で外出している。 人見知り。聞き取りの前後にはスタッフからフォローされ安心した顔をしていた。
Kawasemi	利用者3名	筆談で対応。終始笑顔で不満がないとのこと。 接客に不安を感じることもあるようだが、スタッフに助けを求められるとのこと。
げんげん	利用者12名	発語のない利用者が多く、返答がないことが多い。 横になりながら質問に答えてくれたり、ウロウロしたり、椅子に座るを繰り返す。 それぞれ自由に行動しており、スタッフが時折声をかけ見守っていた。

【障害者虐待事案の改善報告】

事案①

発生日時	2020 年 5 月 29 日（金）12：30 頃
発生場所	げんげん（生活介護） 1F フロア
対象者	Y さん、1956 生、女性、支援区分 6、知的障害
虐待の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放置（ネグレクト） <input type="checkbox"/> 経済的虐待
事案の発生経過	<p>昼食中の 12：30 分頃、他の利用者の食事介助を終えた M スタッフが自身の昼食を食べている時に、M スタッフの後ろから弁当を直接手で触った。その際 M スタッフが「なにすんねん」と大きな声を出しながら、Y さんの腕を振り払った。</p>

事案②

発生日時	2022 年 1 月 28 日（報告を受けた日時）
発生場所	座座（就労継続支援 B 型） 事業所内
対象者	O さん、2003 生、男性支援区分 5、知的障害、自閉スペクトラム
虐待の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放置（ネグレクト） <input type="checkbox"/> 経済的虐待
事案の発生経過	<p>1 月 25 日（火）の 15：00～15：15（休憩時間）が終わり利用者が作業を再開した時に、M スタッフが大きな声を出している O さんを注意をした。その際、M スタッフは、パーテーションの陰で O さんの胸もとを掴み壁に押し当て恫喝していた。M スタッフが恫喝した際、発した言葉・内容は聞き取れなかった。</p>

事案③

発生日時	2022 年 1 月 28 日（報告を受けた日時）
発生場所	座座（就労継続支援 B 型） 事業所内
対象者	T さん、1999 生、男性、支援区分 5、知的障害、自閉スペクトラム症
虐待の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放置（ネグレクト） <input type="checkbox"/> 経済的虐待
事案の発生経過	<p>1 月 25 日（火）の 15：00～15：15（休憩時間）が終わり利用者が作業を再開した時に、離席していた T さんを自席に座ってもらおうと M スタッフが試みるが、自席に戻らないため胸もとを掴み「それだけは、それだけは」と言っている T さんのお腹をグーで殴った。</p>

事案④

発生日時	2022年1月28日（報告を受けた日時）
発生場所	座座（就労継続支援B型） 事業所内
対象者	Yさん、1991生、女性、支援区分4、知的障害
虐待の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放置（ネグレクト） <input type="checkbox"/> 経済的虐待
事案の発生経過	1月25日（火）の終礼後、出入口付近でYさんがもう一人の利用者（確認できなかった）と何やら話している際、MスタッフがYさんに向かって「お前もうっとうしじゃ こら」と腕を払いのけながら暴言を放っていたことをAスタッフが確認。Aスタッフによると、Yさんの前方にいた他利用者とも何やら揉めていたようにも思えたが、詳細は確認できなかった。

事案⑤

発生日時	2022年1月28日（報告を受けた日時）
発生場所	座座（就労継続支援B型） 事業所内
対象者	Kさん、1993生、男性、支援区分5、知的障害
虐待の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 放棄・放置（ネグレクト） <input type="checkbox"/> 経済的虐待
事案の発生経過	1月28日（金）、作業中に離席してウロウロとして色々なものに触りに行こうとしているKさんに対して、Mスタッフが自席に座るよう促したが動かなかった為、強引に席に戻し離れる際に頭突きをしていたことをAスタッフが確認した。

昨年度発生した5つの事案は、Mスタッフによって引き起こされた事案であった。いずれも、管理者不在の時間帯や入職間もない新人スタッフのみが滞在する時間帯に引き起こされていた。

【再発防止に向けての今後の対応】

虐待防止委員会・第三者委員・法人アドバイザー・弁護士を交え再発防止の取組について協議した。

スタッフが事業所で、虐待や権利侵害及び不適切な支援を確認した際には、どんな些細な事でも躊躇せず報告するよう周知した。窓口としてその人が報告しやすいように管理者・本部・第三者委員の複数を設定し、再度周知した。また、口頭では話しにくかったり気軽に報告できる方法として各事業所に目安箱を設置することとした。定期的に内容を確認し、遵守すべき基準として積み上げることにした。

雇入れ時に障害者虐待防止法及び禁止事項、新人研修では倫理綱領を詳しく説明。毎月実施している権利侵害セルフチェックの内容と目的を再度確認し全体に周知した。

全スタッフを対象としたスタッフ研修では「虐待防止」「権利擁護」「支援の方法」をテーマとした研修を実施、報告内容を含め全体に周知し再発防止に努めた。

## 2.安全衛生委員会 活動報告

職員や利用者などの健康管理などについて話し合う場として、1年に4回、そうそうの杜本部にて開催した。

構成メンバーおよび実績は以下の通り

日付	内容
5/20	1.新型コロナウイルス感染症について 2.健康診断について 3.虐待事案について 4.女性活躍推進一般行動計画について 5.キャリアアップ助成金について
8/19	1.ストレスチェックの結果について 2.新型コロナウイルス感染拡大について
11/18	1.新型コロナウイルス感染症について 2.スタッフの難病診断と業務上の配慮について 3.ストレスチェックの結果について
2/17	1.新型コロナウイルス感染症について 2.休職中のスタッフについて 3.結核.花粉症について 4.女性活躍推進法に基づく行動計画について

### 【総括】

2022年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が議題に上がることが多く、法人内での感染状況の確認、感染対策など様々なことについて話し合いが行われた。2022年5月の開催では、感染したスタッフに対して助成金や法人が加入している保険について確認。2022年8月には、第7波の影響で法人にも複数名の感染者が出ていたことから感染対策について多くの時間を割くことになった。感染拡大が収まってからは新型コロナウイルス感染症が感染症法上季節性インフルエンザと同じ5類へ移行になることに関して、厚生労働省が出した通知の内容確認や法人での対応について協議した。

法人内で毎年行っている健康診断については日程の確認をしたり、診断結果を産業医の正木氏に確認してもらうことを依頼。健康診断と同時進行で行っているストレスチェックについては診断結果の内容を精査したり過去の結果との比較を実施した。ストレスチェックについては今後も毎年行うことにより結果を積み上げ、長期的に職員のストレス状況を観察していくことを確認した。

休職している職員に対しては、原因となる傷病の確認や再発防止などについて協議した。社会保険労務士の山岸氏から、休職に対して傷病手当などの申請手続き等について指導してもらい、詳細に確認することができた。また、山岸氏には女性活躍推進一般行動計画やキャリアアップ助成金について申請を依頼した。



### 3.ヒヤリハット委員会 活動報告

#### 【総括】

事故が起こるということが、100%無くなるということはないが、大きな事故の前には、ヒヤッとした、ハッとした出来事がある。ヒヤリハット報告は個人の言動を責める為にあるのではなく、重大な事故を未然に防ぐための重要な情報であるということを前提としている。記録として出てきているが、しかし、何か言われるかも…先輩や上司であるから指摘しにくい、いつものことになっている等、やはりネガティブな側面は拭いきれない。実際に、上がって来た件数は昨年度よりも減っていた。

気付きの視点や感性を養うためのKYT（危険予知トレーニング）を全体会議で実施した。ヒヤリハットが集まることで、一人一人の「気付き」が全体に見えるようになり、同様の場面での事故を防ぐことや、別の視点を知ることができ、相互に「気付き」を増やしていくことに繋がっていくことが一時的に体感出来ても、継続していくことができていなかった。

#### 【事業成果】

- ・事業所の写真を活用したKYT（危険予知トレーニング）を、全体で実施。翌月報告。

#### 【事業課題】

- ・定期的に会議を行ない、事例をまとめていくこと。
- ・職員全体がヒヤリハットを出しやすくしていくようにする。
- ・昨年度行なったKYT（危険予知トレーニング）を継続してできる形にする。

#### 【数値指標】

##### 1.ヒヤリハット報告

分類	2021年度		2022年度	
	件数	割合	件数	割合
ケガ・転倒・転落	73	59%	53	68%
服薬ミス	5	4%	10	13%
行方不明	16	13%	5	6%
交通事故	9	7%	0	0%
誤飲・誤食・誤嚥	8	7%	4	5%
紛失	3	2%	0	0%
器物損壊・車輛	0	2%	2	2%
感染拡大	2	2%	3	4%
その他	0	0%	0	0%
合計	116	—	77	—

## 2.事故報告

分類	2021 年度		2022 年度	
	件数	割合	件数	割合
ケガ・転倒・転落	16	27%	20	39%
服薬ミス	12	20%	5	9%
行方不明	5	8%	8	15%
交通事故	0	0%	0	0%
誤飲・誤食・誤嚥	1	2%	1	2%
紛失	4	7%	7	13%
器物損壊・車輛	11	18%	5	9%
感染拡大	0	0%	0	0%
その他	0	12%	7	13%
合計	49	—	53	—

## 4.防災委員会 活動報告

### 【総括】

防災委員会は、法人内事業所から選抜されたスタッフで構成される。防災委員会は、そうそうの杜として組織的な防災計画の作成と具体的な防災対策の想定、スタッフの防災意識向上を目的とし、それに伴う非常用備品の補充・管理を役割とする。

例年通り、毎月の防災訓練（地震・水害・火災を想定）を事業所単位で実施した。今年度は殊に事業所の移転や新設が相次いだこともあり、環境が変わった中でスタッフ・利用者共々発災時にスムーズに行動できるようにすることを目的とした。また、避難訓練の結果を毎月1回の防災会議で分析し、利用者に応じた事業所ごとの課題を洗い出すことで、災害の種別に応じた避難方法・手順・経路を精査した。可能な限り実際の避難に対応した防災マニュアルの作成を心掛けた。

### 【検討内容報告】

#### 1.防災本部立ち上げについて

寝屋川が城東区を南北に分断しており、橋の崩壊等で南北の往来ができなくなることを想定し、寝屋川を境に本部機能を南北二区画に分けた。南部（鳴野付近）をA地区とし、しぎの あ・うんの杜をA地区の防災本部と設定している。北部（蒲生四丁目付近）をB地区とし、KawasemiをB地区の防災本部と設定している。今年度に入り、新たに耐震構造の事業所も増えたため、避難の初動から防災本部立ち上げまでのマニュアルを一部改訂している（当該事業所が副次的な一時避難拠点としての役割を果たすため）

#### 2.事業所ごとの防災マニュアルに沿った防災訓練

事業所ごとに防災マニュアルを作成し、一時避難場所の設定、防災本部までの避難経路を確認した。また、移転に伴った各事業所マニュアルの見直し、新規利用者、新人スタッフなど人員が変動するたびにマニュアルの見直しをした。

#### 3. 防災グッズの購入と保管場所の検討

しぎの あ・うんの杜に、専用の倉庫として防災グッズ、非常用食料・飲料水を保管している。備蓄倉庫は4か所あり、分散して保管している。現在、4か所の備蓄倉庫に100名×2日分の非常用食料品・飲料水が保管されている。

随時必要な物品、便利なものが出てきた場合は防災委員の会議の中で検討し購入している。（カセットコンロ、軍手、ゴム手袋等）

日常的に使う備品（トイレトペーパー、ハンドペーパー、ゴム手袋）に関しては防災委員での倉庫管理ではなく本部管理で常に入れ替えを行っている。

## 【活動報告】

### 1.避難訓練について

前述の通り、今年度は事業所の移転や新設が相次いだため、訓練内容はあえてひねらず、基本となる一時避難先への避難の習熟に努めるようにした。また、不定期ではあるが訓練内容を撮影し、防災会議、その後に全体会議の場で再検証し、上がってきた課題や対策を各事業所の避難マニュアルに盛り込むよう促した。検証をもとに、不足している物などは迅速に購入し設置している。

また、火災訓練も年2回実施しけが人が出たとの想定でマニュアルに沿って電話連絡訓練も同時に実施している。

### 2 避難訓練実績

日付	内 容
4/9	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
5/12	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
6/17	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
7/19	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
8.12	火事を想定。全事業所が初期消火の後、一時避難所まで避難訓練
9/14	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
10/13	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
11/10	火災訓練（けが人あり）
12/14	地震（津波無し）を想定。全事業所が一時避難場所まで避難訓練
1/17	地震（津波発生）を想定。全事業所が水害時避難場所まで避難訓練
2/15	火災訓練（けが人あり）
3/10	地震（津波発生）を想定。全事業所が水害時避難場所まで避難訓練

### 3.防災会議実施日

日付	内 容
4/26	今年度防災委員の顔合わせ、今後の会議日程の調整 今年度に取り組む活動内容、課題の確認 5月の防災訓練の内容決定

5/24	<p>全体および各事業所の防災マニュアル更新確認、防災用品の購入検討</p> <p>5月訓練内容の振り返り</p> <p>6月の防災訓練の内容決定</p>
6/28	<p>各種マニュアルの更新と差し替え、防災用品の購入検討</p> <p>6月訓練内容の振り返り</p> <p>7月の防災訓練内容決定</p>
7/26	<p>各種マニュアルの更新と差し替え、ソーラー電池・水囊等の購入検討</p> <p>7月訓練内容の振り返り（訓練時の様子を撮影、改善点の洗い出し）</p> <p>8月の防災訓練内容の決定</p>
8/23	<p>発電機、トイレ用テント、OS-1等購入検討、防災用品の備蓄確認</p> <p>8月訓練内容の振り返り（訓練時の様子を撮影、改善点の洗い出し）</p> <p>9月の防災訓練内容の決定</p>
9/27	<p>防災倉庫内整理・物品確認</p> <p>9月訓練内容の振り返り（訓練時の様子を撮影、改善点の洗い出し）</p> <p>10月の防災訓練内容の決定</p>
10/25	<p>防災倉庫内整理・物品確認</p> <p>10月訓練内容の振り返り（全体会議にむけての情報整理）</p> <p>11月の防災訓練内容の決定</p>
11/22	<p>防災用品の整理と消費期限の確認</p> <p>11月訓練内容の振り返り（全体会議にむけての情報整理）</p> <p>12月の防災訓練内容の決定</p>
12/27	<p>各種マニュアルの更新と差し替え</p> <p>12月訓練内容の振り返り（全体会議にむけての情報整理）</p> <p>1月の防災訓練内容の決定</p>
1/24	<p>1月訓練内容の振り返り（全体会議にむけての情報整理）</p> <p>2月の防災訓練内容の決定</p>
2/28	<p>外部研修の日程調整（あべの防災センター）</p> <p>2月訓練内容の振り返り（全体会議にむけての情報整理）</p> <p>3月の防災訓練内容の決定</p>
3/28	<p>新年度にむけての状況確認</p> <p>3月訓練内容の振り返り（全体会議にむけての情報整理）</p> <p>4月の防災訓練内容の決定</p>

**【来年度の課題】**

毎月の防災訓練を試行錯誤しながら実施しているが、日に日にマンネリ化しているのも現状で、新たに訓練の方法を考えて行かなければいけない。そんな中、コロナ感染症も徐々にではあるが緩くなってきている状況で、来年度は消防も含め大規模な訓練を全体会議で実施できればと考えている。

また、来年度も新たな事業、施設も出来てくる中マニュアルを常に改定していかなければいけない。

## 5.地域生活者の未来を考える会 活動報告

### 【総括】

法人内利用者の今後の生活の場やターミナルケア等を含む、地域生活に対する取り組みを検討し、利用者一人一人の「その人らしい生活」の実現を目指し、毎月第二木曜日に開催している。

生活の場を検討していくにあたり、生活介護の利用者を主に考えていたが、就労系サービスの利用者についてもいつ何時生活の場の変化を余儀なくされる状況になるかということでは同じなので、年度途中から就労のスタッフも会議に参加してもらう事になった。

これまでの動きや取り組みは継続しつつ、スタッフの意識を変えていく新たな働きかけをしていけるようにしていく。

### 地域生活者の未来を考える会議実施日

日付	内 容
5/26	今年度に取り組む活動内容、課題の確認 ・生活の場要検討の利用者を事業所ごとにリストアップ ・下宿屋見学会について ・成年後見制度勉強会
6/16	リストアップ→優先順位決定→優先順位高位者に聞き取り
7/21	全体周知・情報共有の方法を検討（8月全体でグループワーク企画→中止）
9/15	全体周知・情報共有の方法を検討（12月全体でグループワーク企画）
9/22	グループワークの進め方検討（グループ分け、ワークシート等）
10/20	グループワークの進行・役割分担確認
11/10	聞き取り結果優先順位高位者の6ケースについて検討
11/8	下宿屋の再編シュミレーション
1/12	転居庵に基づく各種手続き洗い出しと家族・成年後見人等への意思確認
2/2	環境整備、ヘルパー派遣計画の変更等の進捗確認
2/22	転居に伴う他入居者の環境整備・取り組み内容の確認
3/16	地域生活者の未来を考える会の目的の確認
3/23	スタッフのエンパワメントについて検討

## 【事業成果】

### ・全体会議でのグループワーク

今年度一番大きな取り組みとしては、各事業所から気になる利用者をピックアップしてもらい、その人について全体会議で関わりの無い部署のスタッフも含め、現状の生活や、今後の生活の場についてグループワークをしてもらうということだった。

グループワーク実施にあたり、家族からの聞き取りの必要があり、サビ管以外の現場のスタッフにとってはその想いに触れる場面にもなったようである。日中活動所属のスタッフだと生活の場を変えるとということについて考える機会も多くない為、それもまた良い刺激になったと思われる。

ピックアップしてもらったケースでグループワーク出来ていない利用者もいる為、それらの人についてもまたグループワークの機会を設けていく。

### ・下宿屋メンバーの整理

そうそうの杜の下宿屋は空きが無い状態だが、ニーズは常にある。その為、下宿屋のメンバーの入れ替えを検討し、数件の引っ越しを行った。その結果、宿直のいる下宿屋に一枠空きを作ることが出来た。出来た空き枠に入る人を会議で検討していたが、急ぎで生活の場を必要としている新規ケースの相談があり、その方が空き枠に入ることとなった。

## 【事業課題】

### ・下宿屋見学会

家族や本人に自宅を出た後の生活のイメージを持ってもらうために下宿屋の見学会を行う予定だったが、未来を考える会よりも先に法人が下宿屋の見学会を行ってしまったので、未来を考える会としては実施しなかった。見学は利用者からしてみれば具体的なイメージが持てるし、スタッフからしてみれば利用者や家族の想いに触れる場面になる為、個別でも実施していきたい。

### ・エンディングノートの取り組み

昨年度エンディングノートを全体に周知したが、今年度はそれについての動きや働きかけが無かった。継続することで意識は根付いていくと思われる。また、自身の亡き後を考えるのは貴重な時間になる為、働きかけを継続していきたい。



## 6.クラブ活動

### (1) 一五一会サークル 活動報告

#### 【総括】

2022年度は蔓延防止措置が終了という状況下からスタート。活動再開を検討していたところに第7波が襲来し、さらなる活動自粛を余儀なくされた。

第7波が下火になってきたところで、聖賢文化音楽祭の開催が決定。一五一会部に出演依頼があり、それを受けて活動再開。11月3日に無事出演を果たす。その後はそうそうの杜忘年会出演に向けて練習を重ねていたが、法人内部でのコロナ感染者の増加を受けて忘年会は中止。出演の場こそ失われたが、それまでに行なった練習は決して無駄ではないと感じている。

2023年に入り、出演するステージこそないが、週一回の練習は継続して行なうことができた。次のステージ出演を見据えて、楽曲の選定をしながら活動した。

#### 【事業成果】

活動休止状態であったが、コロナの被害が収束してきたところに舞台発表（聖賢文化音楽祭）の開催が決まり、活動を再開しその後も活動を継続することができた。

#### 【事業課題】

活動を継続して行っているが、練習がマンネリ化している状況は否めない。モチベーションの維持向上は変わらず課題である。

また新入部員の確保にも至っておらず、来年度は新入部員を増やして更なる部の活性化を図る。

#### 【体制】

顧問：真頼 正施

部長：高橋 宏明

利用者代表：山名 友子

メンバー（利用者） 山名 友子、藤田 往子、栗林 幸世

（スタッフ）真頼 正施、田島 直人、六田 莉紗、金原 裕一郎、高橋 宏明

## (2) ボウリング同好会 活動報告

設立趣旨 社会福祉法人そうそうの杜の理念に基づき、利用者・スタッフの生活をより充実したものにす  
る為

### 【総括】

2022年度もコロナウイルス感染症の状況下であったが、1年間大きなトラブルもなく活動を行うことができた。新入部員も1名入部し、総勢19名になった。3月には「杜のSHOKUDO」で表彰式と食事会を行い、2023年度の活動に向けて部員一同気持ちを新たにすることができた。

### 【事業成果】

部員の成長が著しく感じられた1年であった。100点を越える事のなかった方も、自己ベストを毎回更新することもあり楽しさも倍増している。

### 【事業課題】

8月と10月・3月(表彰式)を除き、毎月(9回)第3土曜日に開催している。担当者を決め、それぞれ役割を持っているが、1人の担当者に任せっきりになりがちなので、皆で協力できる体制作りを進めていき、次年度更なる活性化図って行く。

### 開催ルール

1. 会費 毎回2,100円(参加費100円/ゲーム代(2ゲーム・靴代含)1,770円

積立金230円(最終月のゲーム代)とする)

(自前の靴でゲームをやられる方は、靴代を差し引いた1,710円でOK)

2. 日時 毎月第3土曜日 10時30分より2時間程度(集合は10時15分)

3. 場所 ラウンドワン城東放出店

4. 役員 会長/多田 泰秀 副会長/栗林 幸世 (補佐) 清水  
会計/小宮 泰行・伊藤 文哉 (補佐) 川内田  
記録/辻 静子・荒川 輝男 (補佐) 清水  
予約係/清水 和美・多田 泰秀

・参加者のレーン組分けは、毎回くじ引きで決定する ⇒ (清水担当)

5. 年間スケジュール(8月と10月は活動休み)

4月~2月の間9回開催し、7回の平均点で年間順位を決定した。

3月に表彰式(食事会)を行った。

(会員) 清水 和美 多田 泰秀 辻 静子 小宮 泰行 栗林 幸世  
成瀬 龍馬 山田 昌徳 尾藤 豊 渡辺 拓宏 渡辺 貴志  
伊藤 文哉 牧野 はるみ 宮西 太 松本 陽太 桐村 弘樹  
松野 七瀬

会員兼進行補助 荒川 輝男 濱野 夕香 川内田 和昭 松田 知美(ジャンプ)

### (3) マラソン部 活動報告

#### 【活動内容】

日時：毎週火曜日 18:00～19:00

場所：蒲生公園

内容：柔軟体操、蒲生公園のグラウンドの外周をウォーキング、ランニング

#### 【メンバー】

利用者6名 多々野みどり、千谷良太、山名美知子、吉村英里子、渡辺貴志、桐村弘樹

スタッフ3名 濱野 夕香、藤原 磨理子、美濃部 絵莉子

#### 【活動報告】

2022年度もこれまで同様、毎週火曜日 18:00 より練習を実施。

雨天や祝日が重なる日以外は、休まずに実施出来た。

固定して参加しているメンバーはスタッフ合わせて7名。休まずに固定して練習に参加するメンバーが増え、部としても活発に活動出来ている。普段会えない他事業所の利用者との交流の機会にもなっており、日々の活動の報告や世間話をしながら交流を深めている。

2022年度は3月2日あおぞらマラソン、10月2日東大阪バリアフリーマラソンの2大会に参加。どちらもリレーマラソンでありチーム一丸となり完走することが出来た。また日々の練習の成果もありタイムも向上していた。

大会に参加することで日々の練習へのモチベーションも上がるため、今後も、積極的に大会に参加していく。

#### (4) eスポーツ部 活動報告

##### 【総括】

余暇支援活動（eスポーツ部）（※以下、eスポーツ部と表記）は、利用者・職員問わずビデオゲームに興味関心がある部員のため、定期的に同好の士と遊べる場所・時間の確保とともに、活動に付随して配信や、外部イベントへの参加を通して部員のスキルアップや交流の幅を広げることを目標にした。

2022年度での部員は3名。毎週月曜日 18:00～19:00、リアンの杜 2F にて活動した。

##### 【事業成果】

今年度も週一回の定期的な開催はほぼ達成できた。部員の参加率もほぼ100%に近く、ささやかな規模ではあるが、趣味に興じられる場を提供するという点においては十分に意義を果たしたと言える。

##### 【事業課題】

イベントへの参加や定期的な配信、それに付随するPC技術のスキル向上等に関しては今年も達成できていない。現在在籍する部員の中で職員は一名だけであり、なかなか大きな動きが取れないという実情もあった。安心して自分の趣味に興じることができる場としての側面と、余暇活動と紐づけてのスキルアップの側面の両方が大事であるため、どちらも取り組んでいけるよう、来期は参加人員の増加を図っていく。

##### 【メンバー】

利用者2名 渡辺 貴志、桐村 弘樹  
スタッフ1名 澤崎 拓磨